

戦略1 農業の成長産業化

方向性(1) 農業への企業参入の促進

施策①-参入農地の確保支援

・参入する企業がより円滑に農地を確保できるよう、農業委員会に設置された農地銀行の活用や、まとまった農地の売却・貸付がされた場合の協力金支給などにより、農地の流動化を促進する。
 ・企業の農業参入に必要な優良農地を確保するため、立地条件が特に良好な耕作放棄地については、新たな補助制度の創設を検討し、農業法人参入を促進する。

【重点事業】

実施事業一農地の流動化の促進

主担当課：農地活用推進課

＜計画期間の事業内容＞

・売却や賃貸の意向がある市内の農地情報を収集し、（農業委員会に設置された農地銀行を広く周知し活用する）、まとまった農地が売却・貸付された場合に協力金を支給することで、農地のマッチングや流動化を促進する。
 ・企業の農業参入に適した農地を集約するため、候補地選定の基礎調査を行い、農業法人の集積が可能な用地確保を行う。

	令和3年度の取組内容	令和4年度の取組内容
計 画	<p>✂取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✂</p> <p>＜取組内容＞ ○令和2年度に実施した「農業参入用地に係る基礎調査」の結果に基づき、企業参入を促すための営業活動を強化する。 ○千葉市の立地特性や農業資源等の情報、農地銀行補助制度等の各種支援制度について、ホームページやイベント等を活用して広く発信する。 ○農政、経済部門で連携し、大規模経営や高付加価値な農産物の生産が可能な法人を誘致する。 ○企業参入に資する優良農地を確保するとともに、情報収集した市内農地と意欲ある担い手とのマッチングを推進する。</p> <p>＜目標件数＞ 令和3年度 5社</p> <p>＜スケジュール＞ ・令和3年10月 「農業Week[※]」出展 ・随時 企業の参入支援制度の周知及び優良農地の確保 企業とのマッチング ※日本最大規模の農業・畜産の総合展示会</p>	<p>✂取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✂</p> <p>＜取組内容＞ ○「農業法人参入促進支援業務委託」により、民間のノウハウを活用して農業法人の参入を促進する。 ○千葉市の立地特性や農業資源等の情報、農地銀行補助制度等の各種支援制度について、ホームページや地元金融機関等への営業等を通して広く発信する。 ○法人参入に資する優良農地を確保するとともに、情報収集した市内農地と意欲ある担い手とのマッチングを推進する。</p> <p>＜目標件数＞ 令和4年度 5社</p> <p>＜スケジュール＞ ・随時 法人の参入支援制度の周知 農業委員、推進委員を通じた農地の確保 とともに、法人とのマッチング 合同会議での農地銀行のPR</p>
	<p>✂目標設定の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・営農中参入法人数 令和元年度40社⇒令和2年度45社 ・法人増加数 令和元年度3社⇒令和2年度5社 ・近年の法人参入実績及び、各種施策の効果を考慮し、1年度当たり5社の増加を目標とする。 	<p>✂目標設定の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年の法人参入実績及び農業生産力強化支援事業等の市単独事業の支援実績を考慮し、1年度当たり5社の増加を目標とする。
実 績	<p>✂取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度実績 14社増加（60社） ・参入窓口において支援 6社 ・法人に農業参入用地等を現地案内 3社 ・農業生産力強化支援事業（市単独事業） 4件 ・農地銀行補助制度実績 3社 ・耕作放棄地活用検証事業 1件 ・農業Weekに出展、来場企業数 179社 	<p>✂取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度実績 6社増加（66社） ・参入窓口において支援 6社 ・法人に農業参入用地等を現地案内 3社 ・農業生産力強化支援事業（市単独事業） 4件 ・農地銀行補助制度実績 0社 ・耕作放棄地活用検証事業 0件
達 成 度	<p>✂目標達成度</p> <p>A 計画以上の成果があった</p>	<p>✂目標達成度</p> <p>B 計画通り実施した</p>
	<p>✂次年度に向けての考え方</p> <p>＜分析＞ ・農地銀行に登録された農地は、狭小、不整形といった条件のものが多く、まとまりのある農地が不足している。</p> <p>＜次年度取組内容＞ ・農業委員会の合同会議を活用し、農業委員・推進委員が行う現地活動の強化徹底を行う。 ・推進委員等による農地所有者への個別周知を行う。（随時） ・「農業委員会だより」を活用し、農地銀行制度及び補助制度の周知を行う。</p>	<p>✂次年度に向けての考え方</p> <p>＜分析＞ ・誘致戦略や参入希望法人のニーズに対応する、まとまりのある立地条件等の良い農地の情報が不足している。</p> <p>＜次年度取組内容＞ ・新規導入する地図情報システムの活用や農業委員・推進委員との連携により、法人参入用地として活用可能な農地（耕作放棄地を含む）の掘り起こしを進める。 ・推進委員等による農地所有者への意向確認等を行う。（随時） ・「農業委員会だより」で農地銀行制度や補助制度を周知する。</p>

千葉市農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略1 農業の成長産業化

方向性(1) 農業への企業参入の促進

施策①-参入農地の確保支援

- ・参入する企業が円滑に農地を確保できるよう、農業委員会に設置された農地銀行の活用や、まとまった農地の売却・貸付がされた場合の協力金支給などにより、農地の流動化を促進する。
- ・企業の農業参入に必要な農地を確保するため、耕作放棄地の再生費用を助成する。また、立地条件が特に良好な耕作放棄地については、新たな補助制度の創設を検討し、農業法人参入を促進する。

実施事業一耕作放棄地の発生防止と利用促進

主担当課：農地活用推進課

<計画期間の事業内容>

- ・耕作放棄地の発生防止と解消を進めるため、農業委員会やJA等の関係機関と連携し、補助制度等の周知を図るとともに、農地と担い手とのマッチングを促進する。また、耕作放棄地の再生を図るため、補助対象者を拡大し費用の助成や機材の貸出し等を行う。
- ・また、一定規模以上で耕作放棄地を所有する地権者に対し、農地を再生する費用を補助した場合に、農業法人等の参入促進につながるかの効果検証をモデル事業として実施する。

令和3年度の取組内容		令和4年度の取組内容	
計 画	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○耕作放棄地の再生及び未然防止を図るため、農業委員会だよりやホームページを活用し補助事業等を周知する。 ○農地利用状況調査で把握した遊休農地（耕作放棄地）の地権者の意向により、農地銀行への登録や、農地中間管理機構へ情報提供するなど、再生利用を促す。 ○「農業参入用地に係る基礎調査」の調査対象地区内（6か所）の耕作放棄地をリストアップして活用を検討する。 ○法人参入に適した農地を確保するため、耕作放棄地を活用する新たな支援制度をモデル事業として実施する。 <目標> 令和3年度 遊休農地減少面積3.55ha <スケジュール> ・令和3年4月～8月 農地の利用状況調査 ・随時 支援制度の周知及び活用推進 ・令和3年8月～ 農地利用最適化推進委員や農業委員にモデル事業等の説明、連携して誘致	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○耕作放棄地の再生及び未然防止を図るため、農業委員会だよりやホームページを活用し補助事業等を周知する。 ○耕作放棄地整備事業（市単事業）の拡充（補助上限額を105千円/10aに引き上げ）等により、再生を推進する。 ○農地利用状況調査で把握した遊休農地（耕作放棄地）の地権者の意向により、農地銀行への登録や、農地中間管理機構へ情報提供するなど、再生利用を促す。 ○法人参入に適した農地を確保するため、耕作放棄地を活用する支援制度をモデル事業として実施する。 <目標> 令和4年度 遊休農地減少面積5.0ha <スケジュール> ・令和4年4月～8月 農地の利用状況調査 ・随時 支援制度の周知及び活用推進	
	目標設定の考え方 ・令和2年度当初の遊休農地47.59haに対して、市・県が補助する事業による再生効果を1年度当たり3.55haの減少として設定した。	目標設定の考え方 ・令和3年度当初の遊休農地48.65haに対して、市が補助する事業による再生効果を1年度当たり5haの減少として設定した。	
	取組内容 ・耕作放棄地再生推進事業（県事業）による再生：55a ・耕作放棄地活用検証事業による再生：81a 合計136ha ※補助事業活用に向けて検討を進めていたが、相続未登記や補助対象外の農地（B分類の荒廃農地）であったため見合わせ（3か所）	取組内容 ・耕作放棄地再生推進事業（県事業※）による再生：0a （※令和3年度で事業終了） ・耕作放棄地整備事業による再生：21a ・耕作放棄地活用検証事業による再生：0a 合計21ha ※補助事業活用に向けて検討を進めていたが、相続未登記等の理由で農地所有者との調整が整わず見合わせ（2箇所）	
目標達成度 C 計画通り実施されなかった	目標達成度 C 計画通り実施されなかった		
次年度に向けての考え方 <分析> ・耕作放棄地再生推進事業（県事業）については、手続きが煩雑で、交付決定までに相当の期間を要することから、限定的な活用に止まった。（令和3年度で終了） ・耕作放棄地整備事業（市単事業）については、補助上限額が低く（45千円/10a）、相当程度の自己負担が発生することから、活用意向が乏しかった。 <次年度取組内容> ・耕作放棄地整備事業（市単事業）の拡充実施（補助上限額を105千円/10aに引き上げ）等により事業活用のインセンティブを向上し、再生を推進する。	次年度に向けての考え方 <分析> ・耕作放棄地整備事業については、補助対象を認定農業者等に限定していることから、要望のあった農業者を支援することができない事例があった。 <次年度取組内容> ・耕作放棄地整備事業について、補助対象を農業者全般に拡大して実施する。		
達成度	達成度		

千葉市農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略1 農業の成長産業化

方向性(1) 農業への企業参入の促進

施策②—農業者と連携する企業への支援

・千葉市内で営農している、もしくは新たに就農しようとする農業者と、食品加工や流通等の関係企業がグループ化して参入する場合、両者に対してメリットのある施策の導入を図る。
 ・新技術の開発・普及やサービスを提供する企業と農業者が連携しやすくなるよう、農業関連企業の誘致を進める。特に、現在は、スタートアップ段階にあるが、今後、ユニコーン企業や大企業に成長する可能性のあるアグリテック、フードテック関係のベンチャー企業の誘致を進め、将来的にはベンチャーバレーの形成を目指す。

実施事業—グループ参入支援策の検討

主担当課：農地活用推進課
 関係課：農政課
 企業立地課

<計画期間の事業内容>

・農業者と食品加工・流通業者等が連携しグループで参入する場合に、農地の賃借料を新規に、施設整備費、機械導入費を拡充し補助する。

令和3年度の取組内容

令和4年度の取組内容

	令和3年度の取組内容	令和4年度の取組内容
計 画	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○新たに参入する食品関連事業者等が、市内の農業者と連携した取り組みを行う場合に、農地の賃借料及び必要な施設整備や設備導入に対して補助する農業法人グループ参入支援補助制度を創設。 ○新たな補助制度をホームページ、講習会、展示会等により情報を発信し周知するとともに営業活動を通じて、企業の掘り起こしを行う。 <目標件数> 令和3年度 年間5社（うち事業活用2社） <スケジュール> ・令和3年6月 農業法人グループ参入支援補助金補正予算要望 ・令和3年7月 補助事業開始 ・令和4年3月 事業完了 ・随時 企業への参入支援制度周知及び活用推進	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○新たに参入する食品関連事業者等が、市内の農業者と連携した取り組みを行う場合に、農地の賃借料及び必要な施設整備や設備導入に対して補助する。 ○補助制度をホームページ、講習会、展示会等により情報を発信し周知するとともに営業活動を通じて、法人の掘り起こしを行う。 <目標件数> 令和4年度 5社（うち事業活用2社） <スケジュール> ・令和4年3月まで 事業計画及び書類作成の伴走型支援 ・令和4年4月 補助事業公募 ・令和5年3月 事業完了 ・随時 法人への参入支援制度周知及び活用推進 ※昨年度より補助制度を周知していたことから、今年度はグループ参入を含め、明確な支援候補が存在。
	目標設定の考え方 ・営農中参入法人数 令和元年度40社⇒令和2年度45社 ・法人増加数 令和元年度3社⇒令和2年度5社 ・近年の法人参入実績及び、各種施策の効果を考慮し、1年度当たり5社の増加を目標とする。 ※グループ参入支援は年間2社を目標とする。	目標設定の考え方 ・近年の法人参入実績及び農業生産力強化支援事業等の市単独事業の支援実績を考慮し、1年度当たり5社の増加を目標とする。 ※グループ参入支援は年間1社を目標とする。
実 績	取組内容 ・農業生産力強化支援事業（市単独事業）のグループ参入タイプの活用は2社を想定していたが、事業の周知・募集期間が、6月補正予算の成立以降の短期間となったため、アイデアベースまでの検討にとどまり、食品加工・流通業者等と連携したグループ参入の事業活用に至らなかった。	取組内容 ・銀行より紹介を受けた農業法人が、食品加工業者と連携（イチゴを生産→加工）して本市へ参入し、イチゴ生産施設を整備した。 ・農業生産力強化支援事業（グループ参入タイプ） 1件 ・農業法人グループ参入促進事業 1件
達 成 度	目標達成度 C 計画通り実施されなかった	目標達成度 B 計画通り実施した
	次年度に向けての考え方 <分析> ・6月補正予算にて措置したことから、事業の周知期間が不足していた。 <次年度取組内容> ・事業の周知を行うとともに、銀行等とも連携した支援を行う。 ・前年度から相談を受けている案件について、伴走型の支援を行う。	次年度に向けての考え方 <分析> ・農業者と食品加工・流通業者等が連携して、グループ参入するケースがほとんどない。 <次年度取組内容> ・農業法人グループ参入促進事業と併せ、銀行等と連携し、制度周知や事業活用を働きかける。

千葉市農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略1 農業の成長産業化

方向性(1) 農業への企業参入の促進

施策②—農業者と連携する企業への支援

・千葉市内で営農している、もしくは新たに就農しようとする農業者と、食品加工や流通等の関係企業がグループ化して参入する場合、両者に対してメリットのある施策の導入を図る。
 ・新技術の開発・普及やサービスを提供する企業と農業者が連携しやすくなるよう、農業関連企業の誘致を進める。特に、現在は、スタートアップ段階にあるが、今後、ユニコーン企業や大企業に成長する可能性のあるアグリテック、フードテック関係のベンチャー企業の誘致を進め、将来的にはベンチャーバレーの形成を目指す。

実施事業—農業関連企業の誘致

主担当課：農業生産振興課
 関係課：農政課
 農地活用推進課

<計画期間の事業内容>

・新技術の開発・普及やサービスを提供する企業と農業者が連携しやすくなるよう、農業関連企業の誘致を進める。特に、現在は、スタートアップ段階にあるが、今後、ユニコーン企業や大企業に成長する可能性のあるアグリテック、フードテック関係のベンチャー企業の誘致を進め、将来的にはベンチャーバレーの形成を目指す。

令和3年度の取組内容

令和4年度の取組内容

	令和3年度の取組内容	令和4年度の取組内容
計 画	<p>✂取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✂</p> <p><取組内容> ○農業法人グループ参入支援補助制度を創設するとともに、補助制度の周知及び活用を推進する。 ○アグリテック企業との連携によるスマート農業に関する実証実験の強化。</p> <p><目標> ・アグリテック企業との意見交換 50社</p> <p><スケジュール> ①スマート農業実証実験 令和3年7月～ 実証実験に向け温室を一部改修 ・随時 企業への参入支援制度周知及び活用推進</p>	<p>✂取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✂</p> <p><取組内容> ○農業法人グループ参入支援補助制度の周知及び活用を推進する。 ○農政センターリニューアルに伴う、アグリテック企業との連携の強化。</p> <p><目標> ・農政センターの実証フィールド化による新たなアグリテック企業との連携拡大</p> <p><スケジュール> ①スマート農業実証実験 令和4年4月～ R3年度ヒアリング実施企業への対応、連携拡大 ・随時 企業への参入支援制度周知及び活用推進</p>
	<p>✂目標設定の考え方</p> <p>・令和2年度実績 28社（うち実証実験3社、連携事業8社） →令和3年度目標 50社 将来的な企業誘致に結び付ける足掛かりとして、アグリテック企業を対象に実証実験のニーズを調査する。</p>	<p>✂目標設定の考え方</p> <p>・令和3年度に策定した農政センターリニューアルプランに基づき、農政センターをスマート農業実証フィールド化し、アグリテック企業との連携強化を図り、将来的な企業誘致に結び付ける。</p>
実 績	<p>✂取組内容</p> <p>・令和3年度実績 28社 目標を50社としていたが、農政センターリニューアルプラン策定業務委託の中で、幅広い技術分野から30社を選定。そのうち、本市に関連する技術を有する28社にヒアリングを実施。また、意見交換を行った28社中16社が農政センター内での実証実験を要望している。</p>	<p>✂取組内容</p> <p>・令和4年度アグリテック企業連携実績 8社 リニューアルプラン策定により、新たにアグリテック企業4社からスマート農業実証フィールドの活用要望を受け、スマート農業機器の開発等の取組をスタートした。 ・また、アグリテック企業14社の協力により、スマート農業展示会を1回開催した。</p>
達 成 度	<p>✂目標達成度</p> <p>B 計画通り実施した</p>	<p>✂目標達成度</p> <p>B 計画通り実施した</p>
	<p>✂次年度に向けての考え方</p> <p>・R3年度のヒアリングで多かった実証実験の要望に計画的に対応する。また、R3年度のヒアリングで十分な意見聴取ができたことから新たなヒアリングは実施しない予定。 ・実証実験の取り組みと、農業者への取り組みの発信、成果の取りまとめ、発信に注力する。</p>	<p>✂次年度に向けての考え方</p> <p>・アグリテック企業との連携を拡大する中で、様々な課題も明らかになってきたため、より良い実証フィールド運用を目指し、手続き等スキームの見直しを行う。</p>

千葉県農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略1 農業の成長産業化

方向性(1) 農業への企業参入の促進

施策③-参入に係る事業化及び手続支援

・農業参入を検討する企業向けのワンストップでの相談窓口を設置・PRするとともに、県や関係機関と連携しながら、手続きについてのアドバイスや進捗フォローを行い、スムーズな参入を支援する。
 ・本市農業への企業の参入促進と競争力強化を図るため、固定資産税・都市計画税の支出に対する助成、施設整備や機械設備の導入費への補助等を行う。

【重点事業】実施事業一農業参入へのワンストップ相談及び参入企業に対する施設・機械導入費等の助成

担当課：農地活用推進課
 関係課：農政課
 企業立地課

<計画期間の事業内容>

・農政部と経済部が一体となった「農業法人誘致プロジェクトチーム」による、参入用地や補助制度の紹介など、ワンストップ相談窓口の機能を活かし、農業法人のスムーズな参入を支援する。
 ・市内への農業参入企業に対し、施設整備費・機械設備導入費への補助（「農業生産力強化支援制度（H31.4～）」）とグループ参入支援〔食品加工業者・流通業者等が連携しグループで参入する場合の補助〕（R3.6～）及び固定資産税、都市計画税等相当額の補助（「農業法人立地促進事業（H31.4～）」（企業立地課予算）を行う。

令和3年度の取組内容

令和4年度の取組内容

計 画	<p>取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール</p> <p><取組内容> ○ワンストップ相談窓口により、参入手続きや生産に関するアドバイスなど支援を行う。</p> <p><目標件数> 令和3年度 5社</p> <p><スケジュール> ・随時 参入法人への営業活動、相談受付 参入企業への補助</p>	<p>取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール</p> <p><取組内容> ○ワンストップ相談窓口により、参入手続きや生産に関するアドバイスなど支援を行う。</p> <p><目標件数> 令和4年度 5社</p> <p><スケジュール> ・随時 参入法人への営業活動、相談受付、補助 企業立地課との連携、打合せ 金融機関等への制度周知 地域の担い手農業者や有力県外法人との 打合せ</p>
	<p>目標設定の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 営農中参入法人数 令和元年度40社⇒令和2年度45社 法人増加数 令和元年度3社⇒令和2年度5社 近年の法人参入実績及び、各種施策の効果を考慮し、1年度当たり5社の増加を目標とする。 	<p>目標設定の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 近年の法人参入実績及び農業生産力強化支援事業等の市単独事業の支援実績を考慮し、1年度当たり5社の増加を目標とする。
実 績	<p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度実績 14社増加（60社） 参入窓口において支援 6社 法人に参入用地等を現地案内 3法人 地銀等金融機関への支援制度の周知を行った。 農業法人立地促進事業（企業立地課） 認定企業3社、補助金交付企業3社 	<p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度実績 6社増加（66社） 参入窓口において支援 6社 法人に参入用地等を現地案内 3法人 銀行への支援制度の周知 農業法人立地促進事業（企業立地課） 認定企業0社、補助金交付企業7社 農業生産力強化支援事業（グループ参入タイプ含む）4件 農業法人グループ参入促進事業 1件
達 成 度	<p>目標達成度</p> <p>A 計画以上の成果があった</p>	<p>目標達成度</p> <p>B 計画通り実施した</p>
	<p>次年度に向けての考え方</p> <p><分析> ・令和元年度から取り組んできた法人誘致を振り返り、誘致戦略を見直した。</p> <p><次年度取組内容> ・これまでの法人参入の状況から新たに誘致戦略を見直し、より本市に密着した営農が行われることを見込み、 ①県外他地域で担い手として展開する有力農業者、 ②市内の地域に根差し活躍する担い手農業者等をターゲットとする。 ・企業立地課との連携を密にしながら、誘致活動を行う。 ・金融機関等へ支援制度を周知するとともに、新たな誘致戦略を踏まえた誘致活動を行う。</p>	<p>次年度に向けての考え方</p> <p><分析> ・誘致戦略を踏まえた参入候補地の提案、法令に基づく手続きへの対応など、法人のニーズに速やかに対応できる体制が整っていない。</p> <p><次年度取組内容> ・民間事業者と連携して参入希望法人の選定及び参入計画の設計を行い、スムーズな参入につなげていくとともに、参入にあたり必要な支援や手続きを整理し、対応マニュアルを作成する。 ・農政部各課や企業立地課との連携を密にしながら、誘致活動を行う。 ・銀行等へ参入支援制度や誘致戦略を周知するとともに、銀行等が持つ農業参入希望法人の情報を共有しながら、連携して誘致活動を行う。</p>

千葉市農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略1 農業の成長産業化

方向性(2) スマート化による農業生産性の向上

施策①—新たな時代に即したスマート農業の推進

・農政センターを各種スマート技術を実証できるフィールドとし、市内農業者がスマート技術に触れ、体験できる場としてリニューアルする。
 ・農政センターがアグリテック企業と最新技術の実証を行うとともに、農政センター敷地内に企業と連携しやすい環境を整備することを検討する。
 ・スマート農業技術の普及のための拠点として、農政センターに求められる新たな役割に対応するための計画を策定するとともに、職員（農業技師）のスマート技術に関する知識や技術を養成し、「千葉市スマ農アドバイザー（仮称）」として確保・育成の上、技術を有する企業と現場のマッチング支援を行う。

【重点事業】

実施事業—農政センターリニューアル

主担当課：農業生産振興課
 関係課：農業経営支援課
 農政課

<計画期間の事業内容>

農政センターに求められる新たな役割に対応するため、施設改修や場内整備に関する計画（リニューアルプラン）の策定を行うとともに、農政センターを各種スマート技術を実証できるフィールドとし、市内農業者がスマート技術に触れ、体験できる場としてリニューアルする。
 農政センターがアグリテック企業と最新技術の実証を行うとともに、センター敷地内にシェアオフィスを設け、企業が連携しやすい環境を整備することを検討する。

令和3年度の実施内容

令和4年度の実施内容

	令和3年度の実施内容	令和4年度の実施内容
計 画	<p>✦取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✦</p> <p><取組内容> ○農政センターをスマート農業技術の実証フィールドとしてリニューアルするプランを策定。（①事業計画、②施設整備計画） ○アグリテック企業との連携を強化するため、温室の一部を改修する。</p> <p><目標> ・令和4年3月 リニューアルプラン策定</p> <p><スケジュール> ・令和3年4月～栽培環境システムの実証実験（リフトバック、Itbookテクノロジー） ・令和3年6月 リニューアルプラン策定業務委託（公募） ・令和3年6月 6月補正予算要望 ・令和3年7月 契約・着手、温室の一部改修 ・令和4年3月 リニューアルプラン策定</p>	<p>✦取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✦</p> <p><取組内容> ○リニューアルプランに基づき、各種計画を実施する。 ○燃油削減技術実証する施設の整備</p> <p><目標> ○イチゴ栽培施設を新設し最新鋭のスマート農業技術及び燃油削減技術の実証を開始</p> <p><スケジュール> ・令和4年 4月～ 実証フィールド拡充 ・令和4年 5月～ 施設改修 ・令和4年 10月～ イチゴ栽培施設竣工 1月 燃油削減技術の実証開始 燃油削減技術の勉強会を開催</p>
	<p>✦目標設定の考え方</p> <p>・アグリテック企業との連携をすすめ、計画的にスマート農業技術を推進する。</p>	<p>✦目標設定の考え方</p> <p>・農政センターリニューアルのフラッグシップとして最新鋭のスマート農業技術を活用できる生産施設を整備する</p>
実 績	<p>✦取組内容</p> <p>・令和4年3月 農政センターリニューアルプラン策定実証実験の実施や成果発表までのスキームを策定した。 ・SDGs 対応型施設園芸推進事業を申請 スマート農業技術実証に加え、令和4年度にイチゴ栽培における燃油削減技術実証を行うため国庫補助事業の申請を行った。</p>	<p>✦取組内容</p> <p>・農政センターリニューアルプランに基づく、各種計画の実施。 ・令和4年10月、スマート農業技術を活用した環境制御により、燃油使用料の削減を生産性の向上と両立することを目指したイチゴ栽培技術実証を開始し、1月には中間報告会として勉強会を実施した。 ・令和4年11月にリニューアル展示会を開催し、取組を市内外に発信した。</p>
達 成 度	<p>✦目標達成度</p> <p>B 計画通り実施した</p>	<p>✦目標達成度</p> <p>B 計画通り実施した</p>
	<p>✦次年度に向けての考え方</p> <p>・アグリテック企業へのヒアリングにより得られた実証要望に対し、スケジュールを組んで対応し、スマート農業実証の取り組みを拡充する。 ・国庫補助事業の活用により、SDGs に対応した施設園芸推進に向け、燃油削減技術実証を行う。 ・リニューアルプランに基づき実証実験を行い、取り組みや成果を農業者に発信するとともに技術を体験できる機会を作る。</p>	<p>✦次年度に向けての考え方</p> <p>・イチゴの燃油削減実証を行い、得られた成果を発信する。 ・施設園芸における燃油削減を更に進めるため、再生可能エネルギーを活用した電化によるトマト栽培の技術実証を行う。 ・スマート農業実証の場としてアグリテック企業と連携するとともに、農業者が技術に触れる機会としてスマート農業展示会を開催する。</p>

千葉市農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略1 農業の成長産業化

方向性(2) スマート化による農業生産性の向上

施策①—新たな時代に即したスマート農業の推進

- ・農政センターを各種スマート技術を実証できるフィールドとし、市内農業者がスマート技術に触れ、体験できる場としてリニューアルする。
- ・農政センターがアグリテック企業と最新技術の実証を行うとともに、農政センター敷地内に企業と連携しやすい環境を整備することを検討する。
- ・スマート農業技術の普及のための拠点として、農政センターに求められる新たな役割に対応するための計画を策定するとともに、職員（農業技師）のスマート技術に関する知識や技術を養成し、「千葉市スマ農アドバイザー（仮称）」として確保・育成の上、技術を有する企業と現場のマッチング支援を行う。

実施事業—農政センターの技術指導等の強化 (千葉市スマ農アドバイザーの育成含む)

主担当課：農業生産振興課
関係課：農業経営支援課

<計画期間の事業内容>

職員（農業技師）のスマート技術に関する知識や技術を養成し、「千葉市スマ農アドバイザー（仮称）」として確保・育成の上、技術を有する企業と現場のマッチング支援を行う。

	令和3年度の取組内容	令和4年度の取組内容
計 画	<p>✂取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✂</p> <p><取組内容> ○農業技師は、環境モニタリングの栽培実証により、温度や湿度、CO2濃度などのデータを活用し、作物の栽培環境の最適化を図り、収穫量を高める環境制御技術を習得する。 ○データ活用型技術指導：市内生産者を対象とするケースワークを実践し、フレームワークによる現状分析、データ整理と業務の見える化を学ぶ。 ○新規就農研修の講座の一部を農業技師が担当し、技師のスキルアップを図る。</p> <p><目標> ・令和3年度（仮称）スマ農アドバイザーの備えるべき技術、知識の明確化 ・令和3年度 農業技師による新規就農アドバンス研修講座 ・令和4年度 データ活用型分析技術指導実践 3件</p> <p><スケジュール> ・令和3年4月～ イチゴ、トマト栽培における実証実験 ・令和3年8月～ 実証実験実施農家のケースワークを通じたデータ活用型指導による農業技師育成（8回） ・令和4年1月～ 新規就農アドバンス研修講師</p>	<p>✂取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✂</p> <p><取組内容> ○農政センターでの環境制御の活用実践 ○環境モニタリングデータの活用、環境制御に関する技術指導の実施 ○データ活用型技術指導：1年目でケースワークにより学んだデータ分析・活用のスキルを活かし、対象品目、生産者を広げた技術指導の実践を通じ応用力を養うとともに、労働時間及びコストの見える化にも取り組む。 ○新規就農研修の講座の一部を農業技師が担当し、技師のスキルアップを図る。</p> <p><目標> ・令和4年度 農業技師による新規就農アドバンス研修講座 ・令和4年度 データ活用型分析技術指導実践 3件 ・令和4年度 農業技師の備えるべき技術、知識の明確化及び農業基本計画への位置づけ</p> <p><スケジュール> ・令和4年4月～ 環境モニタリング実践農家のデータ分析、技術指導 ・令和4年4月～ 新規就農アドバンス研修講師</p>
	<p>✂目標設定の考え方</p> <p>・令和4年度からの農業技師の採用再開を見据え、機能強化した農政センターで事業を担当する技術者を育成するうえで必要なスキルを明確化する。 ・（新規就農研修は検討段階であるため、数値は記載せず）</p>	<p>✂目標設定の考え方</p> <p>・令和3年度からスタートした新規就農アドバンス研修において、農業技師が講義を担当することを継続実施する。 ・令和3年度から3か年計画でスタートするデータ活用型技術指導は、初年度1件の農業者で手法を学び、2年目は対象農業者数、品目を拡大し3件の農業者を対象とした実践を通じ身につける。</p>
実 績	<p>✂取組内容</p> <p>・スマート農業技術を活用した栽培の実践 農政センター内の栽培管理やアドバンス研修のほか、農家への営農指導の実践（6件）においても環境モニタリングシステム等のスマート農業技術の活用を広げた。 ・データ活用型営農指導勉強会 6回開催 イチゴ生産者の協力を得て、農業技師を対象としたデータ活用の勉強会をケーススタディを通じたワークショップ形式で開催した。 ・農業技師によるアドバンス研修での講義の実施 各技師が担当分野の講義を実施。講義への参加により技師間でのスキルアップにも活かされた。</p>	<p>✂取組内容</p> <p>・新規就農アドバンス研修において、イチゴ及びトマトの生産を志向する2名を対象に研修を実施した。 ・R4年1月 新たにイチゴ生産志向者1名の研修を実施している。 ・データ活用型営農指導勉強会 ニンジン生産者3名の協力によりデータを収集し、ケーススタディとして指導プロセスに沿って4回勉強会を行った。</p>
達 成 度	<p>✂目標達成度</p> <p>B 計画通り実施した</p>	<p>✂目標達成度</p> <p>B 計画通り実施した</p>
	<p>✂次年度に向けての考え方</p> <p>・データ活用型営農指導勉強会 経営規模・形態の異なるイチゴ生産者及び他の品目に対象を広げケーススタディを通じた活用実践と勉強会を行う。 ・農業技師によるアドバンス研修での講義の実施を継続する。 ・農業技師の備えるべき技術、知識の明確化 具体的な技術・知識のほか、ジョブローテーションによる育成方法を明確にし、R4年度策定の千葉市農業基本計画に位置付け、計画的な農業技師の育成につなげる。</p>	<p>✂次年度に向けての考え方</p> <p>・引き続き新規就農アドバンス研修を実施する。 ・データ活用型営農指導については3か年計画の最終年となるため、2年の経験を活かし指導プロセスのマニュアル作成を目指す。 ・スマート農業技術を体験する機会を創出するため、環境モニタリングシステム機器のレンタル事業を新たに開始する。</p>

千葉県農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略1 農業の成長産業化

方向性(2) スマート化による農業生産性の向上

施策②-農業現場へのスマート技術の導入推進

- ・市内の農畜産業の担い手へのスマート技術の導入を円滑に進めるために、導入支援に係る事業を強化する。
- ・導入すると高コストとなる大型機器については、農政センターでの所有やリース企業等との連携によるシェアリングサービスの手法を検討する。

【重点事業】

実施事業-スマート農業の地域農業者への展開

主担当：農業生産振興課

＜計画期間の事業内容＞

企業と連携し、スマート農業の実証実験を実施するとともに、その成果を市内農畜産業の担い手に普及させるため、講習会の実施や、導入に係る費用助成を行う。

令和3年度の実績		令和4年度の実績	
計画	<p>取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール</p> <p>＜取組内容＞ ○アグリテック企業との連携によるスマート農業に関する実証実験の強化。 ○スマート農業を支援する機器・機械の整備に助成する（農業生産団地育成事業、主要農産物生産振興事業）。</p> <p>＜目標数値＞ スマート農業の補助事業実施件数 ・令和2年度（事業開始）：3件 ・令和3年度：3件（栽培環境測定システム一式、トラクター用GPSシステム一式、農薬散布機）</p> <p>＜スケジュール＞ ①スマート農業実証実験 ～令和3年6月 イチゴ、トマト栽培での実証実験 令和3年7月～ 実証実験に向け温室を一部改修 令和3年10月 実証実験のデータを活用した栽培講習会 ②スマート農業機器・機械の整備助成 令和3年4月 公募 令和3年6月～ 事業実施 令和3年8月 令和4年度予算要望取りまとめ 令和3年9月 令和4年度予算要望</p>	<p>取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール</p> <p>＜取組内容＞ ○アグリテック企業との連携による実証実験拡大 ○スマート農業を支援する機器・機械の整備に助成する（農業生産団地育成事業、主要農産物生産振興事業）。</p> <p>＜目標数値＞ スマート農業の補助事業実施件数 ・令和4年度：3件（栽培環境測定システム一式、レーザーレベラー、農薬散布ドローン一式〔見込み〕）</p> <p>＜スケジュール＞ ①スマート農業実証実験 令和4年11月 スマート農業体験展示会の開催 ②スマート農業機器・機械の整備助成 令和4年4月～ 事業実施 令和4年8月 令和5年度予算要望取りまとめ 令和4年9月 令和5年度予算要望</p>	
	<p>目標設定の考え方</p> <p>施設園芸農家への導入に適した栽培環境測定システム及び水稲農家への導入に適したGPS付トラクター等の導入補助件数を目標としている。 スマート農業の普及方法としては、実証実験に関する栽培講習会、農家での実証実験をロールモデルとした普及、展示見学会を行うなどの方法をとる。</p>	<p>目標設定の考え方</p> <p>施設園芸農家への導入に適した栽培環境測定システム及び水稲農家への導入に適したレーザーレベラー、農薬散布ドローンの導入補助件数を目標としている。</p>	
実績	<p>取組内容</p> <p>・スマート農業の補助事業実施件数 令和3年度：3件（栽培環境測定システム一式、トラクター用GPSシステム一式、農薬散布機）</p>	<p>取組内容</p> <p>・スマート農業の補助事業実施件数 令和4年度：3件（GPS付きトラクター及び播種機・肥料散布機、農薬散布用ドローン2件）</p>	
達成度	<p>目標達成度</p> <p>B 計画通り実施した</p>	<p>目標達成度</p> <p>B 計画通り実施した</p>	
	<p>次年度に向けての考え方</p> <p>予算の範囲内で、スマート農業を支援する機器・機械の整備に対し助成する。</p>	<p>次年度に向けての考え方</p> <p>予算の範囲内で、スマート農業を支援する機器・機械の整備に対し助成する。</p>	

千葉市農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略1 農業の成長産業化

方向性(2) スマート化による農業生産性の向上

施策②-農業現場へのスマート技術の導入推進

- ・市内の農畜産業の担い手へのスマート技術の導入を円滑に進めるために、導入支援に係る事業を強化する。
- ・導入すると高コストとなる大型機器については、農政センターでの所有やリース企業等との連携によるシェアリングサービスの手法を検討する。

実施事業-大型機器のシェアリングサービスの手法の検討

主担当課：農業経営支援課
関係課：農業生産振興課

<計画期間の事業内容>

農業者がスマート機器を導入するにあたり高コストとなる大型機器については、コスト軽減を図るため、農政センターでの所有やリース企業等との連携によるシェアリングサービスの手法を検討する。

令和3年度の実績		令和4年度の実績	
計 画	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○農機具メーカー等と連携し大型機器のシェアリングサービスの手法の検討する。 <目標> ・事業計画（案）の作成 <スケジュール> ・令和3年4月～ 農機具メーカー等と事業計画の調整 シェアリングサービス導入モデルエリアの選定	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○農業用機器のレンタル等、シェアリングサービスに限定しない、農業者のコスト低減の手法を検討する。 <目標> ・新事業の制度設計 <スケジュール> ・令和4年4月～ 農機具メーカー等と新事業について調整 農政センター所有農機具の貸出に関する意向調査 ・令和5年3月 新事業の制度設計	
	目標設定の考え方 ・令和5年度以降シェアリングサービスを開始する。 ・令和4年度に農業者との調整を進め、事業計画を完成させるため、令和3年度中に事業計画（案）を作成することを目標とする。	目標設定の考え方 ・令和5年度以降シェアリングサービスに限定しない農業用機器のレンタル等を開始するために、農機具メーカー等との調整や、農業者を対象とした意向調査を行い、新事業の制度設計を行う。	
実 績	取組内容 ・農機具メーカーと連携し、トラクターのシェアリングサービスを行っている先進地域を視察し、新規就農者が随時使用できる手法について検討した。	取組内容 ・新規就農者から農機具の貸出等について、意見を聴取し、今後の取組みについて検討を行った。	
達 成 度	目標達成度 B 計画通り実施した	目標達成度 B 計画通り実施した	
	次年度に向けての考え方 ・本市における新規就農者間でのシェアリングは、就農時期や栽培品目が同一でないことから、他市事例を踏まえた事業構築が困難であるため、異なる手法でのシェアリングサービスを検討する。 ・新規就農者を対象に、農政センター所有のトラクター等貸し出しを行っているが、利活用が進まない状況にあり、現状把握のための利用者意向調査を行い事業計画に反映させる。	次年度に向けての考え方 ・新規就農者は、研修先の農家や近隣の農家から農機具を借りることが多いが、営農拠点からの距離や、使用する時期が重なることから、自分で所有することが、合理的であると考えている。このことから、市内の中古施設や機械の情報を集め、新規就農者へ提供する事業を開始することとした。	

千葉市農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略1 農業の成長産業化

方向性(3) 競争力ある担い手の育成

施策①—優良農地の確保と担い手への集積促進

・高収益な作物への転換や経営規模の拡大・スマート技術等の新技術の導入を図る意欲ある農畜産業の担い手に対し、農業用機械施設の導入・整備にあたって必要となる費用を助成する。
 ・農地銀行を活用した農地流動化や、市内農地の情報収集による農地と担い手とのマッチング推進により、農地の担い手への集積を図る。
 ・農業用排水路や農道舗装の整備を促進するとともに、耕作放棄地対策に取組み、優良農地の確保を図る。

【重点事業】

実施事業—農業経営体の育成

主担当課：農業生産振興課

<計画期間の事業内容>

意欲ある農畜産業の担い手が、高収益な作物への転換や経営規模の拡大を図る際に必要な農業用機械施設及びスマート技術導入のための機器・機械の導入・整備に対し、費用助成を行う。

令和3年度の実績		令和4年度の実績	
計 画	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○作業の効率化や省力化を図る農業用機械施設及びスマート農業を支援する機器・機械の整備に助成する。 <目標数値> ①市事業 スマート農業の補助事業実施件数 ・令和2年度（事業開始）：3件 ・令和3年度：3件（栽培環境測定システム一式、トラクター用GPSシステム一式、農業散布機） <スケジュール> ①市事業 令和3年4月～ 事業実施（公募） 令和3年8月 令和4年度農業者要望調査とりまとめ 令和3年9月 令和4年度予算要望 ②国事業・産地生産基盤パワーアップ事業 令和3年6月 産地パワーアップ計画提出 令和3年7月 交付申請 令和3年8月 交付決定 令和3年8月～ 事業実施 令和4年2月 事業完了 令和4年3月 補助金交付	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○作業の効率化や省力化を図る農業用機械施設及びスマート農業を支援する機器・機械の整備に助成する。 <目標数値> ①市事業 スマート農業の補助事業実施件数 ・令和4年度：3件（栽培環境測定システム一式、レーザーレベラー、農業散布ドローン一式〔見込み〕） <スケジュール> ①市事業 令和4年4月～ 事業実施（公募） 令和4年8月 令和5年度農業者要望調査取りまとめ 令和4年9月 令和5年度予算要望	
	目標設定の考え方 施設園芸農家への導入に適した栽培環境測定システム及び水稲農家への導入に適したGPS付トラクター等の導入補助件数を目標としている。 スマート農業の普及方法としては、実証実験に関する栽培講習会、農家での実証実験をロールモデルとした普及、展示見学会を行うなどの方法をとる。	目標設定の考え方 施設園芸農家への導入に適した栽培環境測定システム及び水稲農家への導入に適したレーザーレベラー、農業散布ドローンの導入補助件数を目標としている。	
実 績	取組内容 ・スマート農業の補助事業実施件数 令和3年度：3件（栽培環境測定システム一式、トラクター用GPSシステム一式、農業散布機）	取組内容 ・スマート農業の補助事業実施件数 令和4年度：3件（GPS付きトラクター及び播種機・肥料散布機、農業散布用ドローン2件）	
達 成 度	目標達成度 B 計画通り実施した	目標達成度 B 計画通り実施した	
	次年度に向けての考え方 予算の範囲内で、スマート農業を支援する機器・機械の整備に対し助成する。	次年度に向けての考え方 予算の範囲内で、スマート農業を支援する機器・機械の整備に対し助成する。	

千葉県農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略1 農業の成長産業化

方向性(3) 競争力ある担い手の育成

施策①—優良農地の確保と担い手への集積促進

- ・高収益な作物への転換や経営規模の拡大・スマート技術等の新技術の導入を図る意欲ある農畜産業の担い手に対し、農業用機械施設の導入・整備にあたって必要となる費用を助成する。
- ・農地銀行を活用した農地流動化や、市内農地の情報収集による農地と担い手とのマッチング推進により、農地の担い手への集積を図る。
- ・農業用排水路や農道舗装の整備を促進するとともに、耕作放棄地対策に取組み、優良農地の確保を図る。

実施事業—農業用排水対策事業の推進

主担当課：農政課

<計画期間の事業内容>

北総中央用水の利活用推進、土地改良区等に対する井戸揚水機の電気料補助を実施する。

令和3年度の取組内容		令和4年度の取組内容	
計 画	<p>✂取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✂</p> <p><取組内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・北総中央用水の利活用及び推進を実施する。 鎌田地区：泉宮の用水管整備の推進 平川地区：水利権調整、受益地編入協議 ・井戸揚水機電気料補助を実施 <p><目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎌田地区：用水管整備の完成 ・平川地区：受益地編入手続きの開始 <p><スケジュール></p> <p>鎌田地区 令和3年度 用水管敷設工事、舗装復旧工事 平川地区 年4回 受益地編入等協議 水源対策 令和3年4月 交付決定 令和4年1月 補助金交付</p>	<p>✂取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✂</p> <p><取組内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・北総中央用水の利活用及び推進を実施する。 鎌田地区：舗装復旧工事実施 平川地区：受益地の編入に伴う除外地区の検討協議 水利権協議に向けた資料作成、本協議への調整 <p><目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎌田地区：舗装復旧工事の完成 ・平川地区：除外地区の決定、水利権協議の開始 <p><スケジュール></p> <p>鎌田地区 令和4年度 舗装復旧工事 平川地区 年4回 受益地編入等協議 水源対策 令和4年4月 交付決定 令和5年1月 補助金交付</p>	
	<p>🎯目標設定の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北総中央用水事業における受益地が低迷 鎌田地区：現受益4.0haの事業を確実に完成させる 平川地区：平川土地改良区を導入するため、水利権、受益地編入等の手続きを開始し、早期の編入完了を目指す。 	<p>🎯目標設定の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北総中央用水事業における受益地が低迷 鎌田地区：工事を完成させ、受益地の拡大を目指す 平川地区：平川地区編入に伴う除外地区を決定し、受益面積変更による水利権の協議を開始する。 	
実 績	<p>✂取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北総中央用水の利活用 鎌田地区：用水管整備の完成 平川地区：水利権、受益地編入等の手続きを開始 ・農業用水源対策事業 令和3年4月 交付決定、令和4年1月 補助金交付 	<p>✂取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北総中央用水の利活用 鎌田地区：舗装復旧工事の完成 平川地区：水利権協議資料作成、県と本協議に向けた調整開始 ・農業用水源対策事業 令和4年4月 交付決定、令和5年1月 補助金交付 	
達 成 度	<p>🎯目標達成度</p> <p>B 計画通り実施した</p>	<p>🎯目標達成度</p> <p>B 計画通り実施した</p>	
	<p>🎯次年度に向けての考え方</p> <p><分析></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎌田地区：用水管整備に伴い農業法人の参入も開始された。 ・平川地区：水利権更新は令和7年度末予定である。事業実施に向けて将来的な耕作者の確保が必要となる。 <p><次年度取組内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎌田地区：通水が始まることから、未だ利用していない地元耕作者へ用水の有益性を説明し、受益地の拡大を進める。 ・平川地区：受益地の編入除外を検討し、水利権協議に向けた資料を作成し、千葉県と本協議に向けた調整を行う。 	<p>🎯次年度に向けての考え方</p> <p><分析></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎌田地区：新たな農業法人の参入が開始された。 ・平川地区：人件費や物価の高騰による事業費の増加や、水田を編入することで生じる電気代など、地元の負担が増加する傾向にある。 <p><次年度取組内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎌田地区：農業法人が2社参入しており、受益は拡大傾向にあるが、未だ利用していない地元耕作者も多いことから、引き続き用水の有益性を説明し、受益地の拡大を進める。 ・平川地区：水利権協議に並行して、増加傾向にある地元の負担を軽減できないか県と協議を進めていく。 	

千葉県農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略1 農業の成長産業化

方向性(3) 競争力ある担い手の育成

施策①—優良農地の確保と担い手への集積促進

- ・高収益な作物への転換や経営規模の拡大・スマート技術等の新技術の導入を図る意欲ある農畜産業の担い手に対し、農業用機械施設の導入・整備にあたって必要となる費用を助成する。
- ・農地銀行を活用した農地流動化や、市内農地の情報収集による農地と担い手とのマッチング推進により、農地の担い手への集積を図る。
- ・農業用排水路や農道舗装の整備を促進するとともに、耕作放棄地対策に取組み、優良農地の確保を図る。

実施事業—農道舗装整備の推進

主担当課：農政課

<計画期間の事業内容>

緑農住区開発関連土地基盤整備事業による道路及び農業用道路の舗装整備等を行う。
 ※緑農住区開発関連土地基盤整備事業
 都市と農業が調和のとれた健全な発展ができるように、都市近郊農業の生産基盤を整備しつつ、これと一体的に良好な環境を備えた住宅用地の創出を図ることを目的とした土地基盤整備事業

令和3年度の取組内容

令和4年度の取組内容

	令和3年度の取組内容	令和4年度の取組内容
計 画	<p>✂取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✂</p> <p><取組内容> ・緑農住区開発関連土地基盤整備事業による道路整備を実施する。(令和3年度末目標道路整備率64%) ・農道舗装整備及び農業用排水路整備を実施する。</p> <p><目標> ・道路整備 L=200m</p> <p><スケジュール> 令和3年4月～令和4年3月 道路整備工事 令和3年10月～令和4年3月 農道、農業用排水路整備工事</p>	<p>✂取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✂</p> <p><取組内容> ・緑農住区開発関連土地基盤整備事業による道路整備を実施する。(令和4年度末目標道路整備率77%) ・農道舗装整備及び農業用排水路整備を実施する。</p> <p><目標> ・道路整備 L=350m</p> <p><スケジュール> 令和4年4月～令和5年3月 道路整備工事 令和4年10月～令和5年3月 農道、農業用排水路整備工事</p>
	<p>✂目標設定の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑農住区開発関連土地基盤整備事業の早期完了を目指す。(令和2年度末道路整備率 51%) ・農道における舗装整備率の上昇を目指す。(令和2年度末農道舗装整備率 76%) ・農業用排水路整備率の上昇を目指す。(令和2年度末農業用排水路整備率 58%) 	<p>✂目標設定の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑農住区開発関連土地基盤整備事業の早期完了を目指す。(令和3年度末予定道路整備率 61%) ・農道における舗装整備率の上昇を目指す。(令和3年度末農道舗装整備率 76%) ・農業用排水路整備率の上昇を目指す。(令和3年度末農業用排水路整備率 58%)
実 績	<p>✂取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑農住区開発関連土地基盤整備 整備延長L=140m (令和3年度末道路整備率 61%) ・農道舗装整備 整備延長L=443m (令和3年度末農道舗装整備率 76%) ・農業用排水路整備 整備延長L=61m (令和3年度末農業用排水路整備率 58%) 	<p>✂取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑農住区開発関連土地基盤整備 整備延長L=140m (令和4年度末道路整備率 68%) ・農道舗装整備 整備延長L=384m (令和4年度末農道舗装整備率 76%) ・農業用排水路整備 整備延長L=48m (令和4年度末農業用排水路整備率 58%)
達 成 度	<p>✂目標達成度</p> <p>C 計画通り実施されなかった</p>	<p>✂目標達成度</p> <p>C 計画通り実施されなかった</p>
	<p>✂次年度に向けての考え方</p> <p><分析> 緑農住区開発関連土地基盤整備事業において下水道施設の整備が遅れたため、計画通りの整備が出来なかった。</p> <p><次年度取組内容> 緑農住区開発関連土地基盤整備事業の道路整備、農道舗装整備、農業用排水路整備を推進する。</p>	<p>✂次年度に向けての考え方</p> <p><分析> 緑農住区開発関連土地基盤整備事業において、下水道整備工事の不調により遅れが発生し、工事の施工時期が重なったため、計画通りの整備が出来なかった。</p> <p><次年度取組内容> 緑農住区開発関連土地基盤整備事業の道路整備、農道舗装整備、農業用排水路整備を推進する。</p>

千葉市農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略1 農業の成長産業化

方向性(3) 競争力ある担い手の育成

施策②—地域の中心的な経営体の育成

- ・地域農業の担い手となる認定農業者の育成・支援に取り組む。
- ・認定農業者や認定新規就農者を「人・農地プラン」における中心経営体へ誘導することで、担い手への農地集積を促進する。

実施事業—認定農業者の育成

主担当課：農地活用推進課
関係課：農業経営支援課

<計画期間の事業内容>

- ・新規就農者など新たな認定志向農業者の発掘に努め、地域農業の担い手となる認定農業者の育成に取り組む。

	令和3年度の取組内容	令和4年度の取組内容
計 画	<p>取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール</p> <p><取組内容> ○地域農業の担い手となる認定農業者の掘り起こしとともに、経営改善に向けた講習会等の開催、農業経営改善計画の作成支援などによる育成・支援に取り組む。</p> <p><目標数値> ・令和4年3月末 認定農業者数 177経営体 ・経営改善講習会の開催 1回/年</p> <p><スケジュール> ・令和3年8月 農業経営改善計画 前期認定 ・令和3年11月 経営改善講習会の開催 ・令和3年12月 農業経営改善計画 後期認定 ・令和4年1月～ 農業経営改善計画新規認定は随時受付</p>	<p>取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール</p> <p><取組内容> ○地域農業の担い手となる認定農業者の掘り起こしとともに、経営改善に向けた講習会等の開催、農業経営改善計画の作成支援などによる育成・支援に取り組む。</p> <p><目標数値> ・令和5年3月末 認定農業者数 180経営体 ・経営改善講習会の開催 1回/年</p> <p><スケジュール> ・令和4年4月～ 農業経営改善計画(新規認定) 随時受付 新規就農者等の新規認定候補者情報収集 ・令和4年8月 農業経営改善計画(再認定) 前期認定 ・令和4年11月 経営改善講習会の開催 ・令和4年12月 農業経営改善計画(再認定) 後期認定</p>
	<p>目標設定の考え方</p> <p>・令和元年度 認定農業者数171経営体 ・令和2～4年度において、各年度ごとに新規認定農業者3経営体の増を目指す。</p>	<p>目標設定の考え方</p> <p>・令和元年度 認定農業者数171経営体 ・令和2～4年度において、各年度ごとに新規認定農業者3経営体の増を目指す。</p>
実 績	<p>取組内容</p> <p>・新規認定農業者数 7経営体 ・更新しなかった認定農業者数 10経営体 ※理由：廃業、規模縮小、高齢等 ・認定農業者数 174経営体 ・経営改善講習会 20人参加(うち認定農業者12人) ・「人・農地プラン」 印旛沼土地改良区(谷当町)1経営体追加位置付け</p>	<p>取組内容</p> <p>・新規認定農業者数 3経営体 ・更新しなかった認定農業者数 8経営体 ※理由：廃業、規模縮小、高齢等 ・認定農業者数 169経営体 ・経営改善講習会 16人参加(うち認定農業者5人)</p>
達 成 度	<p>目標達成度</p> <p>C 計画通り実施されなかった</p>	<p>目標達成度</p> <p>C 計画通り実施されなかった</p>
	<p>次年度に向けての考え方</p> <p><分析> 新規認定農業者数は増えているものの、廃業等の理由により更新しない認定農業者数が上回っている。</p> <p><次年度取組内容> 認定新規就農者となっている新規就農者やアドバンス研修の卒業生を認定農業者へ誘導する。</p>	<p>次年度に向けての考え方</p> <p><分析> 新規認定農業者数は増えているものの、廃業等の理由により更新しない認定農業者数が上回っている。</p> <p><次年度取組内容> 認定新規就農者となっている新規就農者やアドバンス研修の卒業生を認定農業者へ誘導する。</p>

千葉県農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略1 農業の成長産業化

方向性(3) 競争力ある担い手の育成

施策②—地域の中心的な経営体の育成

- ・地域農業の担い手となる認定農業者の育成・支援に取り組む。
- ・認定農業者や認定新規就農者を「人・農地プラン」における中心経営体へ誘導することで、担い手への農地集積を促進する。

実施事業—「人・農地プラン」における中心経営体への誘導

主担当課：農地活用推進課

<計画期間の事業内容>

人・農地プランの策定支援を行う。また、認定農業者が各種支援制度を利用して経営改善できるよう、説明会を開催する。

令和3年度の取組内容

令和4年度の取組内容

	令和3年度の取組内容	令和4年度の取組内容
計 画	<p>✂取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✂</p> <p><取組内容> ○農地利用最適化推進委員と連携し、地域の中心経営体となる農業者及び集積する農地の情報を収集する。 ○農地中間管理機構の活用に向けた前向きな地区を対象に「人・農地プラン」の作成に向けた説明会を開催する。</p> <p><目標> 令和3年度 1地区</p> <p><スケジュール> ・随時 「人・農地プラン」作成に向けた情報収集及び説明会の開催</p>	<p>✂取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✂</p> <p><取組内容> ○農地利用最適化推進委員と連携し、地域の中心経営体となる農業者及び集積する農地の情報を収集する。 ○農地中間管理機構の活用に向けた前向きな地区を対象に「人・農地プラン」の作成に向けた説明会を開催する。</p> <p><目標> 令和4年度 1地区</p> <p><スケジュール> ・随時 「人・農地プラン」作成に向けた情報収集及び説明会の開催</p>
	<p>✂目標設定の考え方</p> <p>・県が千葉地域農地利用集積推進目標を定めた4地区のうち1地区（千葉市東部）について、一部地域のみの実施に止まっていることから、国・県補助事業（耕作条件改善事業）の実施に併せて、未実施地域における策定を目指す。</p>	<p>✂目標設定の考え方</p> <p>・県が千葉地域農地利用集積推進目標を定めた4地区のうち1地区（千葉市東部）について、一部地域のみの実施に止まっていることから、国・県補助事業（耕作条件改善事業）の実施に併せて、未実施地域における策定を目指す。</p>
実 績	<p>✂取組内容</p> <p>・農地の利用状況に関するアンケートの実施等により把握した、人・農地プランに基づく大規模集積が見込まれる地域に対して、個別に事業内容の説明を行った。</p>	<p>✂取組内容</p> <p>・令和5年4月1日付け制度見直し後における作成に向けて、モデル地区（県が設定）として取り組むこととなった地域について、地域における話し合いの実施等に係る調整を行った。</p>
達 成 度	<p>✂目標達成度</p> <p>C 計画通り実施されなかった</p>	<p>✂目標達成度</p> <p>C 計画通り実施されなかった</p>
	<p>✂次年度に向けての考え方</p> <p><分析> 候補地域への説明を実施したが、対象地域の確定には至らなかった。 <次年度取組内容> 対象地域を確定し、令和4年5月の法改正による人・農地プランの法定化などの制度改正を踏まえた同プランの策定に向け話し合いを行う。</p>	<p>✂次年度に向けての考え方</p> <p><分析> ・確定した対象地域について、制度見直し後（令和5年度中）における作成に向けて準備を進めた。 <次年度取組内容> ・地域における話し合い等を進め、地域計画（国の制度見直しにより、「人・農地プラン」から「地域計画」に名称が変更）を策定する。</p>

千葉県農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略1 農業の成長産業化

方向性(3) 競争力ある担い手の育成

施策③—法人雇用を通じた新規就農促進

・企業の農業参入に伴う、農業労働需要の高まりに対し、雇用形態での就農を促進するために、オンラインサービス等の多様なツールを用いた求人やマッチング支援を行う。

実施事業—雇用就農の促進

主担当課：農業経営支援課
関係課：農地活用推進課

<計画期間の事業内容>

企業の農業参入に伴う、農業労働需要の高まりに対し、雇用形態での就農を促進するために、オンラインサービス等の多様なツールを用いた求人やマッチング支援を行う。

令和3年度の取組内容

令和4年度の取組内容

	令和3年度の取組内容	令和4年度の取組内容
計 画	<p>✂取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✂</p> <p><取組内容> ○雇用就農希望者研修修了者、農業版ハローワーク求職希望者の市民台帳に記載することなどにより、雇用就農に結び付ける。</p> <p><目標数値> ・研修修了後 雇用就農率50%</p> <p><スケジュール> ・令和3年8月 研修生募集 市政だより・ホームページ等 ・令和3年10月～12月 研修実施 ・研修終了後、求職希望者の市民台帳に記載することなどにより、雇用就農に結び付ける。</p>	<p>✂取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✂</p> <p><取組内容> ○雇用就農希望者研修修了者、農業版ハローワーク求職希望者の市民台帳に記載することなどにより、雇用就農に結び付ける。</p> <p><目標数値> ・研修修了後 雇用就農率50%</p> <p><スケジュール> ・令和4年8月 研修生募集 市政だより・ホームページ等 ・令和4年10月～12月 研修実施 ・研修終了後、求職希望者の市民台帳に記載する、雇用を募集している法人に紹介することにより、雇用就農に結び付ける。</p>
	<p>✂目標設定の考え方</p> <p>・研修修了者が半年以内に就農した割合。 ・研修修了者の半数が農業に従事することを目指す。</p>	<p>✂目標設定の考え方</p> <p>・研修修了者が半年以内に就農した割合。 ・研修修了者の半数が農業に従事することを目指す。</p>
実 績	<p>✂取組内容</p> <p>・雇用就農希望者等研修を実施した。 研修終了後の雇用就農率 33% 研修生数 6人（うち2人が雇用就農、1人が農業従事を目指し他機関での研修を受講）</p>	<p>✂取組内容</p> <p>・雇用就農希望者等研修を実施した。 研修終了後の雇用就農率 50% 研修生数 8人（うち4人が雇用就農）</p>
達 成 度	<p>✂目標達成度</p> <p>B 計画通り実施した</p>	<p>✂目標達成度</p> <p>B 計画通り実施した</p>
	<p>✂次年度に向けての考え方</p> <p>・雇用就農者2人に加え、本研修をきっかけに他機関で更に研修を受け、独立就農を目指す方が1人いたため、概ね計画通りとなった。 ・研修内容や研修生募集方法等の見直しを行い、研修生及び雇用就農者を増加させる。 ・研修終了後に、雇用を募集している法人等に研修生を紹介し、雇用就農率を上げる。</p>	<p>✂次年度に向けての考え方</p> <p>・研修生8人のうち、雇用就農者が4人となり、概ね計画通りとなった。 ・インターンシップを増やすなど、アンケート結果をもとに見直しを行い、研修生及び雇用就農者を増加させる。 ・研修終了後に、雇用を募集している法人等に研修生を紹介し、雇用就農率を上げる。</p>

千葉市農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略1 農業の成長産業化

方向性(3) 競争力ある担い手の育成

施策④—担い手・新規就農者への研修の充実

・担い手及び新規就農者向けに、スマート技術を中心とした経営力・生産性の向上に資する技術を身に付けることができる研修を実施する。

実施事業—先進農業者就農支援プログラム

主担当課：農業経営支援課
関係課：農業生産振興課
農政課

<計画期間の事業内容>

民間企業と連携し、既に就農意欲を持ち農業を学び始めている者を育成し、短期間で「即戦力の農業者」として、市内での就農を実現するため、実習・経営講座等を実施する。

実践型インキュベーションファーム×農業MBAの実施。

期間は1年間で対象は3人程度。農政センターにおいて、実習農場を割り当て、リアルな農業経営の実践により、トップランナーを育成する。

農業版MBAをイメージ、栽培技術だけでなく、組織マネジメントやマーケティングなど、経営者としての育成を目指す。

令和3年度の取組内容

令和4年度の取組内容

取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール

<取組内容>

○先進農業者就農支援プログラムにより、短期間で「強い農業者」を養成し、市内での就農を目指す。

<目標>

・研修修了生の市内での就農

<スケジュール>

・令和3年7月 運営事業者と契約締結
・令和3年7月～ 研修生募集・選考
・令和4年1月～12月 研修実施
・令和5年1月 就農

取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール

<取組内容>

○先進農業者就農支援プログラムにより、短期間で「強い農業者」を養成し、市内での就農を目指す。

<目標>

・研修修了生の市内での就農

<スケジュール>

・令和4年6月～ 研修生募集・選考
・令和5年1月～12月 研修実施
・令和6年1月 就農

目標設定の考え方

・即戦力となる農業者を育成し、市内での就農・定着を目指す。

目標設定の考え方

・即戦力となる農業者を育成し、市内での就農・定着を目指す。

取組内容

・新規就農アドバンス研修を開始した。
①研修生 2人（イチゴ1人、トマト1人）

取組内容

・新規就農アドバンス研修を実施した。
①令和3年度研修生（R4.1～R4.12）
研修生 2人（イチゴ1人、トマト1人） R5.4就農予定
②令和4年度研修生（R5.1～R5.12）
研修生 1人（イチゴ1人）

目標達成度

B

計画通り実施した

目標達成度

B

計画通り実施した

次年度に向けての考え方

・更により良い研修となるよう、研修生募集方法や研修内容等の見直しを行い、幅広い研修生の確保と、研修生の確実な就農を目指す。

次年度に向けての考え方

・既存の2つの研修（新規就農希望者研修・新規就農アドバンス研修）を統合し、ニューファーマー育成研修として実施する。
・研修生がこれまでに取得した技術や知識に合わせて、受けたい研修内容を選べるよう、研修制度を再構築することで、幅広い研修生の確保と、研修生の確実な就農を目指す。

千葉市農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略1 農業の成長産業化

方向性(3) 競争力ある担い手の育成

施策④—担い手・新規就農者への研修の充実

・担い手及び新規就農者向けに、スマート技術を中心とした経営力・生産性の向上に資する技術を身に着けることができる研修を実施する。

実施事業—雇用就農希望者等研修の実施

主担当課：農業経営支援課
関係課：農業生産振興課

<計画期間の事業内容>

担い手及び新規就農者向けに、スマート技術を中心とした経営力・生産性の向上に資する技術を身に着けることができる研修を実施する。

令和3年度の取組内容

令和4年度の取組内容

	令和3年度の取組内容	令和4年度の取組内容
計 画	<p>✂取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール</p> <p><取組内容> ○雇用就農希望者を対象に、農政センターが栽培技術を有する、イチゴ、トマト等の栽培技術の習得を目的とした研修を実施し、生産活動の中核を担う人材の育成を図る。</p> <p><目標数値> ・雇用就農率 50%</p> <p><スケジュール> ・令和3年8月 研修生募集 市政だより・ホームページ等 ・令和3年10月～12月 研修実施 ・研修終了後、求職希望者の市民台帳に記載することなどにより、雇用就農に結び付ける。</p>	<p>✂取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール</p> <p><取組内容> ○雇用就農希望者を対象に、農政センターが栽培技術を有する、イチゴ、トマト等の栽培技術の習得を目的とした研修を実施し、生産活動の中核を担う人材の育成を図る。</p> <p><目標数値> ・雇用就農率 50%</p> <p><スケジュール> ・令和4年8月 研修生募集 市政だより・ホームページ等 ・令和4年10月～12月 研修実施 ・研修終了後、求職希望者の市民台帳に記載することなどにより、雇用就農に結び付ける。</p>
	<p>✂目標設定の考え方</p> <p>・研修修了者が半年以内に就農した割合。 ・研修修了者の半数が農業に従事することを旨とする。</p>	<p>✂目標設定の考え方</p> <p>・研修修了者が半年以内に就農した割合。 ・研修修了者の半数が農業に従事することを旨とする。</p>
実 績	<p>✂取組内容</p> <p>・雇用就農希望者等研修を実施した。 研修終了後の雇用就農率 33% 研修生数 6人（うち2人が雇用就農、1人が農業従事を目指し他機関での研修を受講）</p>	<p>✂取組内容</p> <p>・雇用就農希望者等研修を実施した。 研修終了後の雇用就農率 50% 研修生数 8人（うち4人が雇用就農）</p>
達 成 度	<p>✂目標達成度</p> <p>B 計画通り実施した</p>	<p>✂目標達成度</p> <p>B 計画通り実施した</p>
	<p>✂次年度に向けての考え方</p> <p>・雇用就農者2人に加え、本研修をきっかけに他機関で更に研修を受け、独立就農を目指す方が1人いたため、概ね計画通りとなった。 ・研修内容や研修生募集方法等の見直しを行い、研修生及び雇用就農者を増加させる。 ・研修終了後に、雇用を募集している法人等に研修生を紹介し、雇用就農率を上げる。</p>	<p>✂次年度に向けての考え方</p> <p>・研修生8人のうち、雇用就農者が4人となり、概ね計画通りとなった。 ・インターンシップを増やすなど、アンケート結果をもとに見直しを行い、研修生及び雇用就農者を増加させる。 ・研修終了後に、雇用を募集している法人等に研修生を紹介し、雇用就農率を上げる。</p>

千葉市農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略1 農業の成長産業化

方向性(4) 高付加価値化と販売・PR力の強化

施策①—高付加価値化の推進

・市内や市外に向けて、市民が誇れる千葉市の「食」のブランドを確立するため、令和2年度に立ち上げた「食のブランド」制度により、市内農畜産物の高付加価値化・ブラッシュアップを支援するとともに、首都圏に向けたプロモーションを強化し、ブランド化及び販路拡大を図る。例えば、千葉市が購入額、量ともに日本一であるイチゴは、イチゴ都市のイメージ定着に向け検討する。

・市内農畜産物を活用して6次産業化に取り組む農業者に対し、加工施設、加工用機械等の設備整備、商品開発経費に対する助成等を行い支援する。

・土気からし菜など、地域に根づく伝統野菜の継承とブランド化を図るため、農政センターでの種の維持を行うとともに、栽培技術講習会等を開催し、生産の継続・拡大を促進する。また、認知度向上や加工品開発による消費拡大、高付加価値化を推進する。

・生産者に対し、農畜産物の高付加価値化や販路拡大につながる研修を実施することで、意欲ある農業者の高付加価値化・販路拡大への取組みを後押しする。また、新規就農者や若手農業者など生産者同士のネットワークづくりに取り組む。

【重点事業】

実施事業—食のブランド化推進

担当課：農政課

<計画期間の事業内容>

意欲的な生産・販売に取り組む事業者等への支援として、本市農産物や加工品のブランド化を目指し、千葉市の「食のブランド」認定制度を立ち上げ、ブランド価値向上や認知度を上げる取組み、首都圏でのプロモーション、市内産物の高付加価値化、ブラッシュアップ支援などを行う。

令和3年度の取組内容		令和4年度の取組内容	
計 画	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> 食のブランド認定事務局を運営し、ブランド認定を行うとともに認定品のプロモーション・販路拡大支援を行う。 <目標> 2年目(R3) 認定品の売上げ500万円以上 <スケジュール> 令和3年5月～認定事務局運営等業務委託、プロモーション委託、事業者支援、販路拡大、PRイベント実施、各種情報発信 令和3年11月 第2回ブランド認定審査会 令和3年12月 認定証授与式、認定品広報 令和4年1月 消費者向け動画撮影(認定品)	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> 食のブランド認定事務局を運営し、ブランド認定を行うとともに認定品のプロモーション・販路拡大支援を行う。 <目標> 3年目(R4) 認定品の売上げ1,000万円以上 <スケジュール> 令和4年5月～認定事務局運営等業務委託、プロモーション委託、事業者支援、販路拡大、PRイベント実施、各種情報発信 令和4年11月 第3回ブランド認定審査会 令和5年1月 認定品カタログ、広報物作成 令和5年1月 認定者セミナー、商談会実施 令和5年2月 第3回認定証授与式、PRイベント 令和5年3月 消費者向けPR・販売イベント 随時 認定品広報、各種商談、認定品候補品の発掘	
	目標設定の考え方 認定数20以上×売上25万円 食のブランド戦略で認定品の売上げを以下のように目標設定 3年目(令和4年度) 1,000万円以上(認定数30以上×30万円強) 5年目(令和6年度) 5,000万円以上(認定数100以上×50万円) 10年目(令和11年度) 3億円以上(認定数300以上×100万円)	目標設定の考え方 認定数30以上×売上30万円強 食のブランド戦略で認定品の売上げを以下のように目標設定 3年目(令和4年度) 1,000万円以上(認定数30以上×30万円強) 5年目(令和6年度) 5,000万円以上(認定数100以上×50万円) 10年目(令和11年度) 3億円以上(認定数300以上×100万円)	
実 績	取組内容 ・第2回ブランド認定審査会を実施し、9件(8商品・1サービス)を認定した。合計認定数：19件(16商品・3サービス)(R4.3時点) ・市内事業者の育成及び競争力の強化に向けたセミナーを開催した。計25社参加 第1回：12社 第2回：13社	取組内容 ・第3回ブランド認定審査会を実施し、9件(8商品・1サービス)を認定した。 合計認定数：28件(24商品・4サービス)(R5.3時点) ・市内事業者向けセミナーを開催した。計24社参加 第1回：10社 第2回：14社 ・3年目(R4年度)の認定品の総売上額は11,541万円であった。	
達 成 度	目標達成度 B 計画通り実施した	目標達成度 B 計画通り実施した	
	次年度に向けての考え方 ・認定数については、目標数には達しなかったものの、多数の応募(31件)の中から、予め定められた基準に基づく厳正な審査を行い、ブランドイメージに合致する商品の認定を行うことができたため、計画通り実施できたと評価。 ・売上額の測定については、コロナ禍により販売イベントが制限され、認定による売上効果を測ることが困難であったことから、ブランド立上げ後3年目での効果測定を行うこととし、実施を見送った。次年度は、効果測定の結果も踏まえながら、今後の戦略の見直しについて検討を行う。	次年度に向けての考え方 ・認定数については、目標数には達しなかったものの、厳正な審査を行い、ブランドイメージに合致する商品の認定を行うことができたため、計画通り実施できたと評価。 ・売上額については、目標額を上回っているものの、認定による効果とは判別し難いことから、計画通りとして評価。 ・戦略見直しに向け、消費者アンケートや認定事業者ヒアリングを通じて、効果を把握していく。	

千葉市農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略1 農業の成長産業化

方向性(4) 高付加価値化と販売・PR力の強化

施策①—高付加価値化の推進

- ・市内や市外に向けて、市民が誇れる千葉市の「食」のブランドを確立するため、令和2年度に立ち上げた「食のブランド」制度により、市内農畜産物の高付加価値化・ブラッシュアップを支援するとともに、首都圏に向けたプロモーションを強化し、ブランド化及び販路拡大を図る。例えば、千葉市が購入額、量ともに日本一であるイチゴは、イチゴ都市のイメージ定着に向け検討する。
- ・市内農畜産物を活用して6次産業化に取り組む農業者に対し、加工施設、加工用機械等の設備整備、商品開発経費に対する助成等を行い支援する。
- ・土気からし菜など、地域に根付く伝統野菜の継承とブランド化を図るため、農政センターでの種の維持を行うとともに、栽培技術講習会等を開催し、生産の継続・拡大を促進する。また、認知度向上や加工品開発による消費拡大、高付加価値化を推進する。
- ・生産者に対し、農畜産物の高付加価値化や販路拡大につながる研修を実施することで、意欲ある農業者の高付加価値化・販路拡大への取り組みを後押しする。また、新規就農者や若手農業者など生産者同士のネットワークづくりに取り組む。

実施事業—市内農業者の6次産業化支援

主担当課：農政課

<計画期間の事業内容>

市内農産物を活用して6次産業化に取り組む農業者に対し、加工施設、加工用機械等の設備整備、商品開発経費に対する助成等を行い支援する。

	令和3年度の取組内容	令和4年度の取組内容
計 画	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> 農業者が6次産業化に取り組む際に必要な農産物加工設備の導入や商品開発等に係る費用、展示会出店経費等に対して助成する。 <目標> 当事業を活用する事業者 2事業者 <スケジュール> 令和3年4月 補助事業公募 令和3年5月 実施事業決定、事業開始 令和4年3月 事業完了	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> 農業者が6次産業化に取り組む際に商品開発等に係る費用や展示会出店経費等に対して助成する。 <目標> 当事業を活用する事業者 2事業者 <スケジュール> 令和4年6月 補助事業公募 令和4年7月 実施事業決定、事業開始 令和5年3月 事業完了
	目標設定の考え方 6次産業化のうち、自ら施設・機械を導入する事業者を1件、加工業者と連携し商品開発のみに取り組む事業者を1件と想定。	目標設定の考え方 6次産業化のうち、加工業者と連携し商品開発等に取り組む事業者を2件と想定。
実 績	取組内容 ・トマト農家1件 - トマトソース、トマトリゾットキットの開発 - トマトリゾットキット（アラビアータ風）の開発 ・イチゴ農家1件 - イチゴジャムの開発	取組内容 ・トマト農家1件 - トマトソースの開発 ・落花生農家1件 - ピーナッツオイルの開発
達 成 度	目標達成度 B 計画通り実施した	目標達成度 B 計画通り実施した
	次年度に向けての考え方 ・新たな加工品等の開発は、農業者の6次産業化を促進し、経営向上だけでなく、食のブランド「千」の新たな認定品にも繋がることから、商品開発等への補助を継続して実施する。	次年度に向けての考え方 ・新たな加工品等の開発は、農業者の6次産業化を促進し、経営向上だけでなく、食のブランド「千」の認定候補品の創出にも繋がることから、商品開発等への補助を継続して実施する。

千葉市農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略1 農業の成長産業化

方向性(4) 高付加価値化と販売・PR力の強化

施策①—高付加価値化の推進

・市内や市外に向けて、市民が誇れる千葉市の「食」のブランドを確立するため、令和2年度に立ち上げた「食のブランド」制度により、市内農畜産物の高付加価値化・ブラッシュアップを支援するとともに、首都圏に向けたプロモーションを強化し、ブランド化及び販路拡大を図る。例えば、千葉市が購入額、量ともに日本一であるイチゴは、イチゴ都市のイメージ定着に向け検討する。

・市内農畜産物を活用して6次産業化に取り組む農業者に対し、加工施設、加工用機械等の設備整備、商品開発経費に対する助成等を行い支援する。

・土気からし菜など、地域に根付く伝統野菜の継承とブランド化を図るため、農政センターでの種の維持を行うとともに、栽培技術講習会等を開催し、生産の継続・拡大を促進する。また、認知度向上や加工品開発による消費拡大、高付加価値化を推進する。

・生産者に対し、農畜産物の高付加価値化や販路拡大につながる研修を実施することで、意欲ある農業者の高付加価値化・販路拡大への取組みを後押しする。また、新規就農者や若手農業者など生産者同士のネットワークづくりに取り組む。

実施事業—伝統野菜の継承

担当課：農政課
関係課：農業生産振興課

<計画期間の事業内容>

土気からし菜など、地域に根付く伝統野菜の継承とブランド化を図るため、農政センターでの種の維持を行うとともに、栽培技術講習会を開催し、生産の継続・拡大を促進する。また、認知度向上や加工品開発による消費拡大と高付加価値化を推進する。

令和3年度の取組内容		令和4年度の取組内容	
計 画	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> 土気からし菜等伝統野菜の認知度向上及び販売促進のため、料理教室の開催、料理動画の配信、各種販売会等を実施する。 また、土気からし菜の品質を維持するため、農政センターにおいて、種子更新及び種子の供給を行う。 <目標> 土気からし菜を生産する農業者 10戸 <スケジュール> 令和3年5月 動画作成 令和4年2月 販売会、料理教室等の実施 随時 動画配信	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> 土気からし菜等伝統野菜の認知度向上及び販売促進のため、料理教室の開催、料理動画の配信、各種販売会等を実施する。 また、土気からし菜の品質を維持するため、農政センターにおいて、種子更新及び種子の供給を行う。 <目標> 土気からし菜を生産する農業者 10戸 <スケジュール> 令和5年2月 販売会の実施 随時 ホームページ、SNSでの情報発信	
	目標設定の考え方 伝統野菜土気からし菜を安定して継承していくために必要と考える生産者数。	目標設定の考え方 伝統野菜土気からし菜を安定して継承していくために必要と考える生産者数。また、認知度が高まりつつあり、今後の需要増が見込まれるため、安定的に供給できる生産者を維持していく。	
実 績	取組内容 土気からし菜を生産する農業者 9戸 [各種広報] ・記者発表（味の箱舟登録[登録日R3.3.31]・登録証授与式開催[授与式R3.7.1]） ・市政だより（土気からし菜販売会） ・テレビ・新聞等（味の箱船、土気からし菜販売会等） ・ホームページ、つくだべfacebook（ 〃 ） [販売会] ・土気公民館（計3回）	取組内容 土気からし菜を生産する農業者 8戸 [各種広報] ・市政だより（土気からし菜販売会） ・ホームページ、つくだべfacebook（ 〃 ） [販売会] ・しよいか〜ご千葉店（計3回）	
	目標達成度 B 計画通り実施した 次年度に向けての考え方 販売会での集客、問い合わせの増加など、土気からし菜の認知が高まり、販売にも寄与していることから、次年度についても、各種媒体を使った効果的な広報を実施する。	目標達成度 B 計画通り実施した 次年度に向けての考え方 次年度についても、各種媒体を使った効果的な広報を実施する。生産者の高齢化等により、生産者が減少していることから、新たな生産者確保など、生産持続に向けた検討を行う必要がある。	
達 成 度			

千葉市農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略1 農業の成長産業化

方向性(4) 高付加価値化と販売・PR力の強化

施策①—高付加価値化の推進

- ・市内や市外に向けて、市民が誇れる千葉市の「食」のブランドを確立するため、令和2年度に立ち上げた「食のブランド」制度により、市内農畜産物の高付加価値化・ブラッシュアップを支援するとともに、首都圏に向けたプロモーションを強化し、ブランド化及び販路拡大を図る。例えば、千葉市が購入額、量ともに日本一であるイチゴは、イチゴ都市のイメージ定着に向け検討する。
- ・市内農畜産物を活用して6次産業化に取り組む農業者に対し、加工施設、加工用機械等の設備整備、商品開発経費に対する助成等を行い支援する。
- ・土気からし菜など、地域に根付く伝統野菜の継承とブランド化を図るため、農政センターでの種の維持を行うとともに、栽培技術講習会等を開催し、生産の継続・拡大を促進する。また、認知度向上や加工品開発による消費拡大、高付加価値化を推進する。
- ・生産者に対し、農畜産物の高付加価値化や販路拡大につながる研修を実施することで、意欲ある農業者の高付加価値化・販路拡大への取組みを後押しする。また、新規就農者や若手農業者など生産者同士のネットワークづくりに取り組む。

実施事業—経営能力・販路拡大に対する支援

担当課：農業経営支援課

<計画期間の事業内容>

認定農業者や農業後継者等を対象に、今後の農業経営に必要とされる情報を提供するとともに、販路拡大等を支援するため、経営技術の専門家や販売・加工など消費者目線を持つ講師を招き、農業経営力をサポートする。

	令和3年度の取組内容	令和4年度の取組内容
計 画	<p>✂取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✂</p> <p><取組内容> ○経営技術、販売・加工などをテーマに講座を開催し、経営能力の向上、販路の拡大を支援する。</p> <p><目標数値> ・講習会満足度 80%</p> <p><スケジュール> ・令和3年11月 経営能力・販路拡大に関する講習会の開催</p>	<p>✂取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✂</p> <p><取組内容> ○経営技術、販売・加工などをテーマに講座を開催し、経営能力の向上、販路の拡大を支援する。</p> <p><目標数値> ・講習会満足度 80%</p> <p><スケジュール> ・令和4年11月 経営能力・販路拡大に関する講習会の開催</p>
	<p>✂目標設定の考え方</p> <p>・講習会の目標が達成されたか等をアンケート調査により洗い出し、次につなげる。 ・上記により講習会満足度80%を目指す。</p>	<p>✂目標設定の考え方</p> <p>・講習会の目標が達成されたか等をアンケート調査により洗い出し、次につなげる。 ・上記により講習会満足度80%を目指す。</p>
実 績	<p>✂取組内容</p> <p>・雇用をテーマにした講習会を開催した。 ①参加者 39人 ②満足度 63%</p>	<p>✂取組内容</p> <p>・自然災害等の農業経営へのリスクをテーマにした講習会を開催した。 ①参加者 27人 ②満足度 62%</p>
達 成 度	<p>✂目標達成度</p> <p>B 計画通り実施した</p>	<p>✂目標達成度</p> <p>C 計画通り実施されなかった</p>
	<p>✂次年度に向けての考え方</p> <p>・アンケート内容を踏まえ、テーマを検討し、講習会を開催する。</p>	<p>✂次年度に向けての考え方</p> <p>・参加者から、内容がやや具体的でなかったため、経営に直結して参考となる内容とならなかったとの声があった。 ・アンケート内容を踏まえ、テーマを検討し、講習会を開催する。</p>

千葉市農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略1 農業の成長産業化

方向性(4) 高付加価値化と販売・PR力の強化

施策②ー販売・PR力の強化

- ・都内等で開催される催事等への出店に係る費用の一部を助成し、事業者・農業者の販路拡大を支援する。
- ・千葉市の地産地消をあらわす「千葉市でつくって千葉市でたべる（千葉市つくたべ）」を核にした啓発活動・情報発信をさらに強化するとともに、市内産農産物を購入できる場を増やし、その情報を市民に分かりやすく「見える化」することで、地産地消意識を高め、地元消費を促進する。
- ・市内の農畜産物を積極的に使用する飲食店等を「千葉市地産地消推進店（愛称：千葉市つくたべ推進店）」制度を推進し、登録店の数や取り引きを増やすことで市内産農産物の域内流通の拡大及び生産者の所得向上、地産地消の拡大につなげる。
- ・生産者に対し農畜産物の高付加価値化や販路拡大につながる研修を実施することで、意欲ある農業者の高付加価値化・販路拡大への取組みを後押しする。
- ・新たな食品提供手段として台頭している食品流通に係るフードテック関係企業とも連携しインターネット等を活用した新サービスを展開する。

実施事業ー催事出店支援

主担当課：農政課

<計画期間の事業内容>

域外への販路拡大の意向が強い事業者・農業者に対し、都内等で開催される催事等の出店に係る費用の一部を助成し、事業者の販路拡大を支援する。

令和3年度の取組内容		令和4年度の取組内容		
計 画	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> 販路拡大に意欲的な事業者を対象とし、催事出店への支援や、EC販売等の販路拡大支援を行う。 <目標> 催事に参加する事業者 5事業者 <スケジュール> 随時 催事出店支援補助 事業者ヒアリング	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> 販路拡大に意欲的な事業者を対象とし、催事出店への支援や、EC販売等の販路拡大支援を行う。 <目標> 催事に参加する事業者 5事業者 <スケジュール> 随時 催事出店支援補助	目標設定の考え方 ギフトセレクション受賞者、食のブランド「千」の認定を受けた事業者及び認定を志望する事業者等から、一定の基準を満たす事業者を対象として補助を実施 予算額500千円（100千円×5事業者）	目標設定の考え方 ギフトセレクション受賞者、食のブランド「千」の認定を受けた事業者及び認定を志望する事業者等から、一定の基準を満たす事業者を対象として補助を実施。
	取組内容 ・期間限定千葉県アンテナショップ「ちば・CHI・BA（いちば）」（会場：KITTE丸の内）に11事業者、25商品が出品 ・ECサイト説明会を1回開催し、8事業者が参加。うち1事業者が導入	取組内容 ・期間限定千葉県アンテナショップ「ちば・CHI・BA（いちば）」（会場：阪急梅田2階中央催事店）に10事業者、29商品が出品	目標達成度 B 計画通り実施した	目標達成度 B 計画通り実施した
達 成 度	次年度に向けての考え方 市内事業者の販路拡大につながる情報の提供や支援を、次年度以降も継続的に実施することで、意欲ある事業者の高付加価値化・販路拡大への取組みを後押しし、競争力強化を図る。	次年度に向けての考え方 市内事業者の販路拡大につながる情報の提供や支援を、次年度以降も継続的に実施することで、意欲ある事業者の高付加価値化・販路拡大への取組みを後押しし、競争力強化を図る。		

千葉市農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略1 農業の成長産業化

方向性(4) 高付加価値化と販売・PR力の強化

施策②ー販売・PR力の強化

- ・都内等で開催される催事等への出店に係る費用の一部を助成し、事業者・農業者の販路拡大を支援する。
- ・千葉市の地産地消をあらわす「千葉市でつくって千葉市でたべる（千葉市つくたべ）」を核にした啓発活動・情報発信をさらに強化するとともに、市内産農産物を購入できる場を増やし、その情報を市民に分かりやすく「見える化」することで、地産地消意識を高め、地元消費を促進する。
- ・市内の農畜産物を積極的に使用する飲食店等を「千葉市地産地消推進店（愛称：千葉市つくたべ推進店）」制度を推進し、登録店の数や取り引きを増やすことで市内産農産物の域内流通の拡大及び生産者の所得向上、地産地消の拡大につなげる。
- ・生産者に対し農畜産物の高付加価値化や販路拡大につながる研修を実施することで、意欲ある農業者の高付加価値化・販路拡大への取組みを後押しする。
- ・新たな食品提供手段として台頭している食品流通に係るフードテック関係企業とも連携しインターネット等を活用した新サービスを展開する。

【重点事業】実施事業ー千葉市産農畜産物の見える化及び「千葉市つくたべ」の啓発・推進

主担当課：農政課

<計画期間の事業内容>

地産地消の意識を醸成し、積極的に取組む消費者を増やすため、パンフレットや販促物の作成、ホームページやSNSでの情報発信を強化し、市内産農畜産物が食べられる、買える場の情報を見える化し、地元での消費を高める。

	令和3年度の取組内容	令和4年度の取組内容
計 画	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> 千葉市つくたべのパンフレットや販促物の作成、つくたべ特設HPの刷新、facebook、Instagram等での情報発信を行う。 <目標> つくたべ推進店登録件数 55件（R3年度末） <スケジュール> 令和3年12月 パンフレット、販促物の作成 随時 情報発信	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> 千葉市つくたべの認知度を高めるため、つくたべBOXの定期販売を実施するとともに、つくたべHPの更新、facebook、Instagram等での情報発信を行う。 <目標> つくたべ推進店登録件数 60件（R4年度末） <スケジュール> 令和4年10月 つくたべBOXの販売（年度内4回の実施を予定） 令和4年12月 パンフレット、販促物の作成 随時 情報発信
	目標設定の考え方 市民が地元千葉市の農産物をより身近に買える、食べられるよう、千葉市つくたべ、地産地消の取り組みに賛同し地元産農産物を取り扱う直売所、飲食店等を60件程度まで増やす。	目標設定の考え方 市民が地元千葉市の農産物をより身近に買える、食べられるよう、千葉市つくたべ、地産地消の取り組みに賛同し地元産農産物を取り扱う直売所、飲食店等を60件程度まで増やす。
実 績	取組内容 ・つくたべ推進店登録件数 49件（R2：47件、R元：45件） ・地元野菜の詰め合わせセット「つくたべBOX」の販売 野菜、米、トマトソース等の詰合せ ・ABCクッキングでの料理動画配信 「つくたべBOX」の材料を使った料理動画をInstagramで生配信 ・つくたべHPの刷新、facebookでの情報発信等	取組内容 ・つくたべ推進店登録件数 47件 （R3：49件、R2：47件、R元：45件） ・千葉市産農産物等の詰め合わせセット「つくたべBOX」の販売4回 ・ABCクッキングでの料理動画配信 「つくたべBOX」の材料を使った料理動画を配信 ・つくたべHPの刷新、SNSでの情報発信等
達 成 度	目標達成度 B 計画通り実施した	目標達成度 C 計画通り実施されなかった
	次年度に向けての考え方 <分析> 新型コロナウイルスの影響により、登録店の撤退が生じるなど、つくたべ推進店登録件数は、目標を下回ったものの、計画では予定していなかった新たな事業を実施することができた。特に、「つくたべBOX」については、予定数を上回る応募があったこと、動画配信後のアンケート結果から、地元野菜の詰合せについて、一定の需要が見込めることが分かった。 <次年度取組内容> 「つくたべBOX」の定期販売について検討するとともに、料理動画配信については、その発信力の高さを生かし、食のブランド「干」との連携も含めて、次年度以降の実施について検討する。	次年度に向けての考え方 <分析> コロナ禍による経営難、人材不足により登録店の撤退が生じるなど、つくたべ推進店登録件数は、目標を下回った。一方で、「つくたべBOX」の販売回数の拡大、連動した動画配信、HP・SNSでの情報発信の強化など、プロモーションに注力したこともあり、「つくたべBOX」は全300セットが完売するなど、千葉市産農産物に対する需要が見込めることが分かった。 <次年度取組内容> 「つくたべBOX」の定期販売を継続するとともに、料理動画配信との連携、SNSでの発信を実施し、地産地消意欲の更なる醸成を図る。 また、並行してつくたべ推進店の登録拡大に努め、千葉市産農産物が買える店及び食べられる店の情報提供を進め、消費機会の拡大を図る。

千葉市農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略1 農業の成長産業化

方向性(4) 高付加価値化と販売・PR力の強化

施策②ー販売・PR力の強化

- ・都内等で開催される催事等への出店に係る費用の一部を助成し、事業者・農業者の販路拡大を支援する。
- ・千葉市の地産地消をあらわす「千葉市でつくって千葉市でたべる（千葉市つくたべ）」を核にした啓発活動・情報発信をさらに強化するとともに、市内産農産物を購入できる場を増やし、その情報を市民に分かりやすく「見える化」することで、地産地消意識を高め、地元消費を促進する。
- ・市内の農畜産物を積極的に使用する飲食店等を「千葉市地産地消推進店（愛称：千葉市つくたべ推進店）」制度を推進し、登録店の数や取り引きを増やすことで市内産農産物の域内流通の拡大及び生産者の所得向上、地産地消の拡大につなげる。
- ・生産者に対し農畜産物の高付加価値化や販路拡大につながる研修を実施することで、意欲ある農業者の高付加価値化・販路拡大への取組みを後押しする。
- ・新たな食品提供手段として台頭している食品流通に係るフードテック関係企業とも連携しインターネット等を活用した新サービスを展開する。

実施事業ー千葉市地産地消推進店登録制度の推進

担当課：農政課

<計画期間の事業内容>

市内産農産物を購入・飲食できる機会を増やすため、市内産農産物を積極的に使用する飲食店等の登録制度を活用し、ホームページ等でPRすることで、地産地消の拡大に繋げていく。

令和3年度の取組内容		令和4年度の取組内容	
計 画	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> 地産地消を志向する飲食店と農家の個別マッチングをすすめる。 <目標> つくたべ推進店登録件数 55件（R3年度末） <スケジュール> 随時 個別マッチング	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> 地産地消を志向する飲食店と農家の個別マッチングをすすめる。 <目標> つくたべ推進店登録件数 60件（R4年度末） <スケジュール> 随時 個別マッチング	
	目標設定の考え方 市民が地元千葉市の農産物をより身近に買える、食べられるよう、千葉市つくたべ、地産地消の取り組みに賛同し地元産農産物を取り扱う直売所、飲食店等を60件程度まで増やす。	目標設定の考え方 市民が地元千葉市の農産物をより身近に買える、食べられるよう、千葉市つくたべ、地産地消の取り組みに賛同し地元産農産物を取り扱う直売所、飲食店等を60件程度まで増やす。	
実 績	取組内容 ・つくたべ推進店登録件数 49件（R2：47件、R元：45件） ・地産地消を志向する飲食店と農家のマッチングを行ったほか、短距離・小ロット流通が可能な「やさいバス」については、生産者や実需者（小売店、飲食店）に対して説明会、個別説明、マッチング等を行った。	取組内容 ・つくたべ推進店登録件数 47件（R3：49件、R2：47件、R元：45件） ・短距離・小ロット流通が可能な「やさいバス」について、生産者に対して個別説明、マッチングを行った。	
	目標達成度 B 計画通り実施した	目標達成度 C 計画通り実施されなかった	
達 成 度	次年度に向けての考え方 ・つくたべ推進店登録件数は目標を下回ったものの、継続的に増加（R2：47件、R元：45件）していることや、飲食店等からの問合せがあることから、実需者と農家のマッチングや、登録店の掘り起こしを進める。 ・登録のメリットを提供できるよう、HPやSNSを活用した買える店や食べられる店のPRを強化する。	次年度に向けての考え方 ・つくたべ推進店登録件数は目標を下回っていることから、登録店の掘り起こしを進める。 ・登録のメリットを提供できるよう、HPやSNS、市政だよりを活用しての、推進店に関する情報発信を実施する。	

千葉市農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略1 農業の成長産業化

方向性(4) 高付加価値化と販売・PR力の強化

施策②ー販売・PR力の強化

- ・都内等で開催される催事等への出店に係る費用の一部を助成し、事業者・農業者の販路拡大を支援する。
- ・千葉市の地産地消をあらわす「千葉市でつくって千葉市でたべる（千葉市つくたべ）」を核にした啓発活動・情報発信をさらに強化するとともに、市内産農産物を購入できる場を増やし、その情報を市民に分かりやすく「見える化」することで、地産地消意識を高め、地元消費を促進する。
- ・市内の農畜産物を積極的に使用する飲食店等を「千葉市地産地消推進店（愛称：千葉市つくたべ推進店）」制度を推進し、登録店の数や取り引きを増やすことで市内産農産物の域内流通の拡大及び生産者の所得向上、地産地消の拡大につなげる。
- ・生産者に対し農畜産物の高付加価値化や販路拡大につながる研修を実施することで、意欲ある農業者の高付加価値化・販路拡大への取組みを後押しする。
- ・新たな食品提供手段として台頭している食品流通に係るフードテック関係企業とも連携しインターネット等を活用した新サービスを展開する。

実施事業ーフードテック関連企業との連携

主担当課：農政課

<計画期間の事業内容>

新たな食品提供手段として台頭しているフードテック関係企業と連携し、新たなサービスの展開を図る。

とくに、「クックパッドマート」（料理レシピサイトと連動したインターネットを介した新たな物流システム）や「やさいバス」（生産者と消費者・飲食店を直接つなぐ新たな物流システム）といった、これまで流通が課題となっていた生産者と消費者、飲食店などを結ぶ新たなサービスについて検討、実証を重ねた上で展開していく。

令和3年度の取組内容

令和4年度の取組内容

	令和3年度の取組内容	令和4年度の取組内容
計 画	<p>✦取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✦</p> <p><取組内容> 「やさいバス」「クックパッドマート」等の新たなECサービスを活用し、生産者と飲食店を結び取組みを促進する。また、消費者に対しても、新たな地産地消の形としてPRしていく。</p> <p><目標> EC販売に関する説明会 2回</p> <p><スケジュール> 随時 EC事業者紹介、個別マッチング、情報発信</p>	<p>✦取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✦</p> <p><取組内容> 「やさいバス」「クックパッドマート」等の新たなECサービスを活用し、生産者と飲食店を結び取組みを促進する。また、消費者に対しても、新たな地産地消の形としてPRしていく。</p> <p><目標> EC販売に関する説明会 2回</p> <p><スケジュール> 随時 EC事業者紹介、個別マッチング、情報発信</p>
	<p>✦目標設定の考え方</p> <p>農業者の販路を多様化させるとともに、市民が地元千葉市の農産物を買える機会を増やす。</p>	<p>✦目標設定の考え方</p> <p>農業者の販路を多様化させるとともに、市民が地元千葉市の農産物を買える機会を増やす。</p>
実 績	<p>✦取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ECサイト説明会を1回開催し、8事業者が参加。うち1事業者が導入 ・やさいバス説明会を1回開催し、農業者12人が参加。R3末時点で生産者16、購入者39の市内事業者が参画中 ・市内郵便局2局にて、やさいバスを活用した販売所を開設（R3.7月スタート※配送人材不足により12月以降中断） ・モノレール千葉駅にてクックパッドマート冷蔵庫を導入（R3.12月） ・クックパッドマートについて、市内5金融機関、日本郵便及び商工会議所に対し、サービス導入に向けた個別説明を実施 	<p>✦取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ECサイトでの販売に向け、商談会を2回開催。1回目は10件の農業者が参加。2回目は7件が取扱いに向けた具体的な商談を実施。
達 成 度	<p>✦目標達成度</p> <p>B 計画通り実施した</p> <p>✦次年度に向けての考え方</p> <p>「やさいバス」「クックパッドマート」とともに、市内においてサービスが広がりつつあり、農業者や実需者とのマッチングを強化し、市民が地元千葉市の農産物を買える機会の更なる拡大を目指す。</p>	<p>✦目標達成度</p> <p>B 計画通り実施した</p> <p>✦次年度に向けての考え方</p> <p>食のブランド「千」認定品を中心に、千葉市産農産物の取扱いについて、継続して商談及びマッチングの機会を創出し、生産者の所得向上を目指す。</p>

千葉県農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略2 個別農家の持続性と経営力強化

方向性(1) 多様な担い手の確保・育成

施策①—新規就農希望者の就農支援

- ・ 新規就農希望者が本市で農地を確保できるよう、農地情報の提供等によって農地の確保を支援する。
- ・ 市街化区域においては、生産緑地への新規・追加指定および特定生産緑地への指定を含め、生産緑地制度を活用した農地保全策を推進し、都市農地と新規就農希望者とのマッチングを推進する。
- ・ 企業のノウハウも活用した農業技術や経営方法等を学ぶための研修や、現場での技術指導により、本市での新規就農希望者の就農を支援する。

【重点事業】 実施事業—新規就農希望者研修の実施

主担当課：農業経営支援課

<計画期間の事業内容>

多様な担い手を確保・育成するため、農業技術・経営方法等を学ぶ研修や営農指導を行う。

令和3年度の実績		令和4年度の実績	
計画	令和3年度の実績	計画	令和4年度の実績
	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○農業に意欲を持ち新規就農を希望するもので、農業に必要な技術や経営方法等を基礎から学ぶ必要がある者に対し研修を行う。 <目標> ・令和3年度に研修を修了する者（令和元年度生）の市内での就農 <スケジュール> ・令和3年7月～10月 研修生募集・選考 ・令和4年1月～令和6年3月 研修実施 ・令和6年4月 就農		取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○農業に意欲を持ち新規就農を希望するもので、農業に必要な技術や経営方法等を基礎から学ぶ必要がある者に対し研修を行う。 <目標> ・令和4年度に研修を修了する者（令和2年度生）の市内での就農 <スケジュール> ・令和4年7月～10月 研修生募集・選考 ・令和5年1月～令和7年3月 研修実施 ・令和7年4月 就農
	目標設定の考え方 ・新たな農業者を育成し、市内での就農・定着を目指す。		目標設定の考え方 ・新たな農業者を育成し、市内での就農・定着を目指す。
実績	取組内容 ・新規就農希望者研修を実施した。 ①基礎研修生 0人（2人の応募があったが、就農のビジョン等が本市の新規就農者確保・育成の方向性と合致しなかったため。） ②農家研修生 2人 ③実地研修生 2人（R4.4.1就農）	取組内容 ・新規就農希望者研修を実施した。 ①基礎研修生 1人 ②農家研修生 0人 ③実地研修生 2人（R4.4.1就農）	
達成度	目標達成度 B 計画通り実施した 次年度に向けての考え方 ・研修生募集方法等の見直しを行い、意欲的で、市内での就農・定着が期待できる研修生を集め、新規就農者として育成する。	目標達成度 B 計画通り実施した 次年度に向けての考え方 ・本研修と、R3年度より開始した新規就農アドバンス研修を統合し、新規就農希望者が、自分の農業に関する知識や経験、実施したい研修内容に合わせて、コースを選べる「ニューファーマー育成研修」として、新たな研修制度を開始する。	

千葉県農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略2 個別農家の持続性と経営力強化

方向性(1) 多様な担い手の確保・育成

施策②ー千葉県農業に関わる者による新たなコミュニティの形成

・千葉市内の若手や女性を含めた農業者と、各種企業、行政、農協等が集うコミュニティを形成し、定期的に千葉県農業の方向性について語るアイデアソン等を実施します。

【重点事業】
実施事業ーアイデアソン等の実施

主担当課：農業経営支援課
関係課：農業生産振興課
農政課

<計画期間の事業内容>

千葉市内の若手や女性を含めた農業者と、各種企業、行政、農協等が集うコミュニティを形成し、定期的に千葉県農業の方向性について語るアイデアソン等を実施する。

令和3年度の実績		令和4年度の実績	
計 画	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○市内の若手や女性を含めた農業者と、各種企業、行政、農協等が集うコミュニティを形成し、本市農業の方向性について語るアイデアソンを実施する。 <目標数値> ・アイデアソン開催 1回/年 <スケジュール> ・令和4年1月～2月 参加者募集 ・令和4年2月～3月 アイデアソン実施	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○市内の若手や女性を含めた農業者と、各種企業、行政、農協等が集うコミュニティを形成し、本市農業の方向性について語るアイデアソンを実施する。 <目標数値> ・アイデアソン開催 1回/年 <スケジュール> ・令和5年1月～2月 参加者募集 ・令和5年2月～3月 アイデアソン実施	
	目標設定の考え方 ・対話を通じて創出される新たなアイデア等を、本市農業の施策に反映させるために、農閑期の2月～3月に年1回のアイデアソンの開催を目指す。	目標設定の考え方 ・対話を通じて創出される新たなアイデア等を、本市農業の施策に反映させるために、農閑期の2月～3月に年1回のアイデアソンの開催を目指す。	
実 績	取組内容 ・農政センターリニューアルプラン検討委員会 3回/年 アイデアソンに代わる形として、農政センターの方向性について、農業者等との対話を通じた検討を行った。	取組内容 ・燃油削減実証実験に係る中間発表会 1回/年 アイデアソンに代わる形として、農政センターで実施している燃油削減技術を用いたイチゴ栽培について、中間発表を行うとともに、農業者等との対話を通じた検討を行った。	
達 成 度	目標達成度 B 計画通り実施した	目標達成度 B 計画通り実施した	
	次年度に向けての考え方 ・農業者等との対話を通じ、本市農業の方向性について検討する機会を捉えるとともに、情報交換や農業技術体験をしてもらったための農業者交流会を開催する。	次年度に向けての考え方 ・農業者等との対話を通じ、本市農業の方向性について検討する機会を捉えるとともに、情報交換や農業技術体験をしてもらったための農業者交流会を開催する。	

千葉県農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略2 個別農家の持続性と経営力強化

方向性(1) 多様な担い手の確保・育成

施策③ー農家の技術力向上と人手確保支援

・雇用就農希望者や既存農家の後継者など市内の農家を対象に、栽培技術の習得や、農業機械の操作・メンテナンス等に関する研修を行う。
 ・地域の生産現場を専門の技術員が巡回し、生産者の様々な悩み・疑問へのアドバイスや相談対応、支援制度の情報提供等を行うとともに、行政・関係機関とのコミュニケーション強化を図る。

【重点事業】
実施事業一既存農家の後継者向けの研修の実施

主担当課：農業経営支援課
 関係課：農業生産振興課

<計画期間の事業内容>

既存農家の後継者や雇用就農希望者等を対象に、農政センターに栽培技術を有する、イチゴ、トマト等の栽培技術の習得を目的とした研修を実施する。

令和3年度の実績		令和4年度の実績	
計 画	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○既存農家の後継者を対象に、農政センターが栽培技術を有する、イチゴ・トマトの栽培技術の習得を目的とした研修を実施する。 ○栽培及びスマート農業に係る講義や実習、雇用者による講義を行う「雇用就農希望者等研修」への参加を促すことで、イチゴ・トマト栽培技術等の習得を目指す。 <目標数値> ・研修満足度 80% <スケジュール> ・令和3年8月 研修生募集 ※既存農家の後継者でイチゴ・トマト栽培を志向する後継者に周知 ・令和3年10月～12月 研修実施	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○既存農家の後継者を対象に、農政センターが栽培技術を有する、イチゴ・トマトの栽培技術の習得を目的とした研修を実施する。 ○栽培及びスマート農業に係る講義や実習、雇用者による講義を行う「雇用就農希望者等研修」への参加を促すことで、イチゴ・トマト栽培技術等の習得を目指す。 <目標数値> ・研修満足度 80% <スケジュール> ・令和4年8月 研修生募集 ※既存農家の後継者でイチゴ・トマト栽培を志向する後継者に周知 ・令和4年10月～12月 研修実施	
	目標設定の考え方 ・研修の目標は達成されたか、問題点はどこか、どこを改善すればよいのかをアンケート調査により洗い出し、次につなげる。 ・上記により研修満足度80%を目指す。	目標設定の考え方 ・研修の目標は達成されたか、問題点はどこか、どこを改善すればよいのかをアンケート調査により洗い出し、次につなげる。 ・上記により研修満足度80%を目指す。	
実 績	取組内容 ・雇用就農希望者等研修を実施した。 ①研修生数 6人 ②研修満足度 100%	取組内容 ・雇用就農希望者等研修を実施した。 ①研修生数 8人 ②研修満足度 75%	
	目標達成度 B 計画通り実施した	目標達成度 B 計画通り実施した	
達 成 度	次年度に向けての考え方 ・研修満足度は高かったが、参加者数については10人募集のところ6人とどまった。 ・雇用の活用や、イチゴ・トマトの栽培を検討している後継者等に積極的に研修の周知を行い、後継者の参加人数を増加させる。	次年度に向けての考え方 ・研修満足度は75%と、概ね目標を達成した。 ・参加者数は10人募集のところ8人とどまったが、トマト栽培に興味がある農業後継者2人が、一部の講義を受講した。 ・雇用の活用や、イチゴ・トマトの栽培を検討している後継者等に積極的に研修の周知を行い、後継者の参加人数を増加させる。	

千葉県農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略2 個別農家の持続性と経営力強化

方向性(1) 多様な担い手の確保・育成

施策③ー農家の技術力向上と人手確保支援

・雇用就農希望者や既存農家の後継者など市内の農家を対象に、栽培技術の習得や、農業機械の操作・メンテナンス等に関する研修を行う。
 ・地域の生産現場を専門の技術員が巡回し、生産者の様々な悩み・疑問へのアドバイスや相談対応、支援制度の情報提供等を行うとともに、行政・関係機関とのコミュニケーション強化を図る。

実施事業ー農業機械操作メンテナンスに関する支援

主担当課：農業経営支援課
 関係課：農業生産振興課

＜計画期間の事業内容＞
 農業機械の操作やメンテナンスについて研修を行う。

令和3年度の実績		令和4年度の実績	
計 画	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール ＜取組内容＞ ○新規就農者等を対象に、農業機械の操作やメンテナンスについて研修を行う。 ＜目標数値＞ ・研修理解度 75% ＜スケジュール＞ ・令和3年6月 研修実施	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール ＜取組内容＞ ○新規就農者等を対象に、農業機械の操作やメンテナンスについて研修を行う。 ＜目標数値＞ ・研修理解度 75% ＜スケジュール＞ ・令和4年6月 研修実施	
	目標設定の考え方 ・研修受講後にアンケートを実施し、農機具のメンテナンスが自らできたかどうか調査を行う。 ・上記により研修理解度75%を目指す。	目標設定の考え方 ・研修受講後にアンケートを実施し、農機具のメンテナンスが自らできたかどうか調査を行う。 ・上記により研修理解度75%を目指す。	
実 績	取組内容 ・農業機械操作メンテナンス研修を実施した。 ①研修生数 3人 ②研修理解度 67%	取組内容 ・農業機械操作メンテナンス研修を実施した。 ①研修生数 10人 ②研修理解度 80%	
達 成 度	目標達成度 B 計画通り実施した	目標達成度 A 計画通り実施した	
	次年度に向けての考え方 ・アンケートを通じて研修理解度を確認し、理解度の目標達成には至らなかったものの、総合評価として研修生3人から、最高評価の「とても分かりやすかった」という評価をもらうことができた。 ・令和4年度は、研修内容がより分かりやすくなるよう、農機具メーカーと検討を行うとともに、新規就農者を中心に、農業後継者等にも積極的な周知を行い、参加者の増加を図る。	次年度に向けての考え方 ・研修内容の検討を行い、普段から自分でメンテナンスを行うべき部分と、メーカーに依頼すべき部分を分けて説明するなど、わかりやすい内容とし、参加者の理解度が80%を超えた。 ・新規就農者が、メーカーに話を聞く機会は多くないので、事前に質問を集め、当日回答がもらえる形にすることで、より理解度の高い研修にする。	

千葉県農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略2 個別農家の持続性と経営力強化

方向性(2) 農業者のニーズに合わせた個別支援の充実

施策①ー農畜産物価格・資材等の対策強化と情報提供の充実

- ・意欲ある担い手に対し、施設の改修や農業機械の更新、資材に対する助成を行い、生産者の収益確保を支援する。
- ・Facebook、LINE等のSNSやメールマガジン等により農家向けに農地、技術情報等を発信する。
- ・農政センターを拠点として専門の技術員が市内農家を巡回し、農家が日々直面している課題解決の支援や各種情報提供を行います。また、実証フィールドで得た知識や技術を活かし、生産現場への普及を進める。
- ・生産者の経営安定と生産意欲の向上、農産物の安定供給を図るため、野菜価格が低落した場合に補償金を交付する。
- ・土壌診断による施肥設計の作成支援や、千葉県での農業経営に適している農作物の種苗供給等を行うことで、農業者の生産性向上を図る。

【重点事業】実施事業ー施設の改修・農業機械の更新及び資材の購入に対する支援

主担当課：農業生産振興課

<計画期間の事業内容>

施設の改修、農業機械の更新に対する補助を行う。
また、環境に配慮した生分解性マルチの実証展示や、ハウスの被覆資材等に対する補助を行う。

令和3年度の実績		令和4年度の実績	
計 画	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○農業機械の更新に対する補助を行う。 <目標数値> 施設改修・機械更新・資材購入に対する助成件数 ・R3年度予算要望（事業開始）：1件（機械更新） <スケジュール> 令和3年4月～ 事業実施 令和3年8月 令和4年度農業者要望調査取りまとめ 令和3年9月 令和4年度予算要望（生分解性マルチ実証展示委託要望含む）	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○施設の改修、農業機械の更新に対する補助を行うとともに生分解性マルチの実証展示を行う。 <目標数値> 施設改修・機械更新・資材購入に対する助成件数 ・R4年度予算要望：2件（施設改修、機械更新） <スケジュール> 令和4年4月～ 事業実施 令和4年8月 令和5年度農業者要望調査取りまとめ 令和4年9月 令和5年度予算要望	
	目標設定の考え方 農業用機械施設の新規導入と同じ予算の範囲内で、一定程度確保する。	目標設定の考え方 農業用機械施設の新規導入と同じ予算の範囲内で、一定程度確保する。	
実 績	取組内容 R3年度助成件数：機械更新2件	取組内容 R4年度助成件数：施設改修2件	
達 成 度	目標達成度 A 計画以上の成果があった	目標達成度 B 計画通り実施した	
	次年度に向けての考え方 農業用機械施設の新規導入と同じ予算の範囲内で、施設の改修、農業機械の更新に対する補助を行う。	次年度に向けての考え方 農業用機械施設の新規導入と同じ予算の範囲内で、施設の改修、農業機械の更新に対する補助を行う。また、生分解性マルチの新規導入について県制度の活用を検討する。	

千葉県農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略2 個別農家の持続性と経営力強化

方向性(2) 農業者のニーズに合わせた個別支援の充実

施策①ー農畜産物価格・資材等の対策強化と情報提供の充実

- ・意欲ある担い手に対し、施設の改修や農業機械の更新、資材に対する助成を行い、生産者の収益確保を支援する。
- ・Facebook、LINE等のSNSやメールマガジン等により農家向けに農地、技術情報等を発信する。
- ・農政センターを拠点として専門の技術員が市内農家を巡回し、農家が日々直面している課題解決の支援や各種情報提供を行います。また、実証フィールドで得た知識や技術を活かし、生産現場への普及を進める。
- ・生産者の経営安定と生産意欲の向上、農産物の安定供給を図るため、野菜価格が低落した場合に補償金を交付する。
- ・土壌診断による施肥設計の作成支援や、千葉県での農業経営に適している農作物の種苗供給等を行うことで、農業者の生産性向上を図る。

実施事業ーSNS等の活用による農家への情報発信

主担当課：農政課

<計画期間の事業内容>

Facebook、Twitter等のSNSやメールマガジン等により農家向けに農地、技術情報等を発信する。

令和3年度の実績		令和4年度の実績	
計 画	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○現状、市内生産者への連絡手段は、農業委員会だよりや農家組合長を通じた連絡、ホームページの活用等に限られており、リアルタイムで情報が伝わりにくいことや必要とする人に情報が十分にいきわたらないことから、既存の情報発信手段に加えて、SNSやメールマガジン等の手段により、即時性がありプッシュ型の情報発信を行っていく。 <目標> ・令和3年度 情報発信手段、運用体制、マニュアルの検討 ・令和4年4月 運用開始 <スケジュール> 令和3年4月～ 情報発信手段、運用体制、マニュアルの検討 令和4年4月～ 運用開始	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> OSNSやメールマガジン等の手段により、即時性がありプッシュ型の情報発信を行う。 <目標> ・令和4年度 運用体制、マニュアルの検討 ・令和5年4月 運用開始 <スケジュール> 令和4年4月～ 運用体制、マニュアルの検討 令和5年4月～ 運用開始	
	目標設定の考え方 運用開始時期を令和4年4月とし、マニュアルの整備等に必要の期間を十分に確保できるよう、目標を設定した。	目標設定の考え方 運用開始時期を令和5年4月とし、マニュアルの整備等に必要の期間を十分に確保できるよう、目標を設定した。	
実 績	取組内容 情報発信手段を各種検討した結果、行政にとっても運用しやすく生産者にとってもアクセスが容易であると考えられるLINEを使った情報発信を検討したが、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、農業者のLINEの活用状況等に関する農業者との意見交換や、普及に係る検討・調査が思うように進まなかったことから、情報発信手段の検討にとどまった。	取組内容 運用体制の検討やマニュアルの作成を進めるために、農業者側の意見を聴取することを検討したが、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、そのような機会を設けることが出来なかったことから、マニュアル等の策定には至らなかった。	
達 成 度	目標達成度 C 計画通り実施されなかった	目標達成度 C 計画通り実施されなかった	
	次年度に向けての考え方 新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、情報発信に係る運用体制の検討やマニュアルの検討を行い、運用開始に向けて検討を進める。	次年度に向けての考え方 農業者側のニーズや民間企業等における情報発信サービスなど、効果的な情報発信に繋がる取組みの情報収集を引き続き実施する。	

千葉県農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略2 個別農家の持続性と経営力強化

方向性(2) 農業者のニーズに合わせた個別支援の充実

施策①ー農畜産物価格・資材等の対策強化と情報提供の充実

- ・意欲ある担い手に対し、施設の改修や農業機械の更新、資材に対する助成を行い、生産者の収益確保を支援する。
- ・Facebook、LINE等のSNSやメールマガジン等により農家向けに農地、技術情報等を発信する。
- ・農政センターを拠点として専門の技術員が市内農家を巡回し、農家が日々直面している課題解決の支援や各種情報提供を行います。また、実証フィールドで得た知識や技術を活かし、生産現場への普及を進める。
- ・生産者の経営安定と生産意欲の向上、農産物の安定供給を図るため、野菜価格が低落した場合に補償金を交付する。
- ・土壌診断による施肥設計の作成支援や、千葉県での農業経営に適している農作物の種苗供給等を行うことで、農業者の生産性向上を図る。

実施事業ー野菜価格安定対策の実施

主担当課：農業生産振興課

<計画期間の事業内容>

生産者の経営安定と生産意欲の向上、農産物の安定供給を図るため、野菜価格が低落した場合に補償金を交付する。

	令和3年度の実績	令和4年度の実績
計画	<p>✦取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✦</p> <p><取組内容> ○千葉県野菜価格安定対策協議会が生産者に対して支払う補償金や、国・県の制度に参加する生産者の負担金に対して助成する。</p> <p><目標> 事業の円滑な実施・運営を行う。</p> <p><スケジュール> 令和3年4月 ①②交付申請、交付決定 令和3年5月 ①概算払い 令和3年10月 ①概算払い 令和4年3月 ①②実績報告、①補助金精算 令和4年4月 ②精算払い</p>	<p>✦取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✦</p> <p><取組内容> ○千葉県野菜価格安定対策協議会が生産者に対して支払う補償金や、国・県の制度に参加する生産者の負担金に対して助成する。</p> <p><目標> 事業の円滑な実施・運営を行う。</p> <p><スケジュール> 令和4年4月 ①②交付申請、交付決定 令和4年5月 ①概算払い 令和4年10月 ①概算払い 令和5年3月 ①②実績報告、①補助金精算 令和5年4月 ②精算払い</p>
実績	<p>✦取組内容</p> <p>事務局のJAと連絡調整し、円滑な事務を行った。</p>	<p>✦取組内容</p> <p>事務局のJAと連絡調整し、円滑な事務を行った。</p>
達成度	<p>✦目標達成度</p> <p>B 計画通り実施した</p> <p>✦次年度に向けての考え方</p> <p>千葉県野菜価格安定対策協議会事務局のJAと連絡調整し、円滑な事務を行い、補償金を交付する。</p>	<p>✦目標達成度</p> <p>B 計画通り実施した</p> <p>✦次年度に向けての考え方</p> <p>千葉県野菜価格安定対策協議会事務局のJAと連絡調整し、円滑な事務を行い、補償金を交付する。</p>

千葉県農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略2 個別農家の持続性と経営力強化

方向性(2) 農業者のニーズに合わせた個別支援の充実

施策①ー農畜産物価格・資材等の対策強化と情報提供の充実

- ・意欲ある担い手に対し、施設の改修や農業機械の更新、資材に対する助成を行い、生産者の収益確保を支援する。
- ・Facebook、LINE等のSNSやメールマガジン等により農家向けに農地、技術情報等を発信する。
- ・農政センターを拠点として専門の技術員が市内農家を巡回し、農家が日々直面している課題解決の支援や各種情報提供を行います。また、実証フィールドで得た知識や技術を活かし、生産現場への普及を進める。
- ・生産者の経営安定と生産意欲の向上、農産物の安定供給を図るため、野菜価格が低落した場合に補償金を交付する。
- ・土壌診断による施肥設計の作成支援や、千葉県での農業経営に適している農作物の種苗供給等を行うことで、農業者の生産性向上を図る。

実施事業ー土壌診断による施肥設計の作成支援

主担当課：農業生産振興課

<計画期間の事業内容>

土壌診断による施肥設計の作成支援を行うことで、農業者の生産性のより一層の向上を図る。

	令和3年度の実績	令和4年度の実績
計 画	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○生産者に対して、土壌診断を活用した施肥設計の作成を支援する。 <目標数値> ①土壌診断 800検体 ②養液診断 450検体 ③堆肥等 50検体 合計 1,300検体 <スケジュール> 随時 通年で土壌・水耕養液分析及び診断	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○生産者に対して、土壌診断を活用した施肥設計の作成を支援するとともに、周知を強化する。 <目標数値> ①土壌診断 800検体 ②養液診断 450検体 ③堆肥等 50検体 合計 1,300検体 <スケジュール> 随時 通年で土壌・水耕養液分析及び診断
	目標設定の考え方 販売農家支援のため、過去の分析実績から目標数値を設定	目標設定の考え方 肥料価格高騰対策事業においても土壌診断の実施を要件としており、販売農家支援のため、過去の分析実績から目標数値を設定
実 績	取組内容 ①土壌診断 500検体 ②養液診断 500検体 ③堆肥等 20検体 合計 1,020検体 ※見込み	取組内容 ①土壌診断 570検体 ②養液診断 650検体 ③堆肥等 7検体 合計 1,227検体 ※見込み
達 成 度	目標達成度 C 計画通り実施されなかった	目標達成度 B 計画通り実施した
	次年度に向けての考え方 <分析> 農業者への周知が不足しており、従来利用している農業者のみの活用にとどまった。 <次年度取組内容> 令和3年5月に策定された、「みどりの食料システム戦略」で化学肥料の使用量低減が示されていることから、農業者に対し、土壌診断の活用をさらに広報していく。	次年度に向けての考え方 <分析> 目標を達成しなかったものの、令和5年2月は、昨年同月比で3倍程度の件数となっており、肥料価格高騰対策で資格要件として、周知を図った成果が表れてきたものと考えられる。 <次年度取組内容> 農業者に対し、土壌診断の活用をさらに広報していく。

千葉県農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略2 個別農家の持続性と経営力強化

方向性(2) 農業者のニーズに合わせた個別支援の充実

施策①ー農畜産物価格・資材等の対策強化と情報提供の充実

- ・意欲ある担い手に対し、施設の改修や農業機械の更新、資材に対する助成を行い、生産者の収益確保を支援する。
- ・Facebook、LINE等のSNSやメールマガジン等により農家向けに農地、技術情報等を発信する。
- ・農政センターを拠点として専門の技術員が市内農家を巡回し、農家が日々直面している課題解決の支援や各種情報提供を行います。また、実証フィールドで得た知識や技術を活かし、生産現場への普及を進める。
- ・生産者の経営安定と生産意欲の向上、農産物の安定供給を図るため、野菜価格が低落した場合に補償金を交付する。
- ・土壌診断による施肥設計の作成支援や、千葉県での農業経営に適している農作物の種苗供給等を行うことで、農業者の生産性向上を図る。

実施事業ー種苗供給による安定生産支援

主担当課：農業生産振興課

<計画期間の事業内容>

消費動向を踏まえた千葉県での農業経営に適しているとみられる農産物の優良種苗の供給により、生産性の向上を支援する。

令和3年度の実績		令和4年度の実績	
計 画	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取り組み内容> 安定生産を支援するため、優良な形質を持った種苗を供給する。 <目標> ・令和3年度 優良種苗供給数 4品目 63,000本 <スケジュール> ・令和3年 4月～ 種苗供給	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取り組み内容> 安定生産を支援するため、優良な形質を持った種苗を供給する。 <目標> ・令和4年度 優良種苗供給数 4品目 63,000本 <スケジュール> ・令和4年 4月～ 種苗供給	
	目標設定の考え方 ・農家の需要を満たせる供給数を確保する。	目標設定の考え方 ・農家の需要を満たせる供給数を確保する。	
実 績	取組内容 ・令和3年度 優良種苗供給数 4品目 19,310本 令和元年の台風の影響により生育不良となった坊主不知ネギの株回復のため、供給を一旦見送った。	取組内容 ・令和4年度 優良種苗供給数 3品目 19,970本 病害発生のため坊主不知ネギの供給を見送った。 作付場所を分散するとともに、観察防除を徹底し次年度の配布を目指し管理している。	
	目標達成度 C 計画通り実施されなかった	目標達成度 C 計画通り実施されなかった	
達 成 度	次年度に向けての考え方 ・株の選抜や肥培管理などの細かな栽培により、農家の需要を満たせる供給数を確保する。	次年度に向けての考え方 ・株の選抜や病害虫管理により、農家の需要を満たせる供給数を確保する。	

千葉県農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略2 個別農家の持続性と経営力強化

方向性(2) 農業者のニーズに合わせた個別支援の充実

施策②-畜産の経営環境向上に向けた支援

- ・施設の改修や消毒・環境衛生資材、野生鳥獣侵入防止資材の購入に対する支援を行い、畜産農家の経営を支援する。
- ・家畜伝染病に係る予防接種またはワクチン投与に対する支援を拡大する。
- ・本市農業の特徴の一つである酪農振興のため、優良後継牛の確保支援を行い、生乳の生産性向上を図る。

【重点事業】

実施事業一家畜伝染病予防対策の実施

主担当課：農業生産振興課

<計画期間の事業内容>

家畜防疫の徹底を図るため、家畜伝染病に係る検査、予防接種又はワクチン投与に対する支援を拡大するとともに、消毒・環境衛生資材や野生鳥獣侵入防止資材の購入に対する支援を行う。

令和3年度の実績		令和4年度の実績	
計 画	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○畜産経営に多大な被害を与える家畜伝染病を未然に防ぐため、予防接種、ワクチン接種及び消毒剤購入に係る費用を助成する。 ○畜産農家を巡回する中で制度の周知を図る。 <目標助成割合> 令和3年度 100% <スケジュール> ・令和3年4月～11月 農家巡回の中で制度を周知 ・令和4年3月～ 補助金確定	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○畜産経営に多大な被害を与える家畜伝染病を未然に防ぐため、予防接種、ワクチン接種及び消毒剤購入に係る費用を助成する。 ○畜産農家を巡回する中で制度の周知を図る。 <目標助成割合> 令和4年度 100% <スケジュール> ・令和4年4月～11月 農家巡回の中で制度を周知 ・令和5年3月～ 補助金確定	
	目標設定の考え方 ・市内全畜産農家を対象に実施する（36戸）。	目標設定の考え方 ・市内全畜産農家を対象に実施する。	
実 績	取組内容 ・市内全畜産農家（35戸、1戸廃業）を対象に消毒資材を配布した ・助成割合実績：100%	取組内容 ・市内全畜産農家（29戸）を対象に消毒資材を配布した ・助成割合実績：100%	
達 成 度	目標達成度 B 計画通り実施した	目標達成度 B 計画通り実施した	
	次年度に向けての考え方 ・助成制度の周知を図り、市内全畜産農家を対象に支援を実施する	次年度に向けての考え方 ・助成制度の周知を図り、市内全畜産農家を対象に支援を実施する	

千葉県農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略2 個別農家の持続性と経営力強化

方向性(2) 農業者のニーズに合わせた個別支援の充実

施策②一畜産の経営環境向上に向けた支援

- ・施設の改修や消毒・環境衛生資材、野生鳥獣侵入防止資材の購入に対する支援を行い、畜産農家の経営を支援する。
- ・家畜伝染病に係る予防接種またはワクチン投与に対する支援を拡大する。
- ・本市農業の特徴の一つである酪農振興のため、優良後継牛の確保支援を行い、生乳の生産性向上を図る。

実施事業一優良後継牛の確保

主担当課：農業生産振興課

<計画期間の事業内容>

乳牛の生乳生産性を向上させるため、性判別精液や受精卵の活用による優良後継牛の確保支援を行う。

令和3年度の実績		令和4年度の実績	
計 画	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○乳牛の生産性を向上させるため、性判別精液や受精卵の導入に係る費用を助成する。 ○酪農家巡回の中で制度の周知を図る。 <目標助成割合> 令和3年度 33.3% <スケジュール> ・令和3年4月～11月 酪農家巡回の中で制度を周知 ・令和4年3月～ 補助金確定	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○乳牛の生産性を向上させるため、性判別精液や受精卵の導入に係る費用を助成する。 ○酪農家巡回の中で制度の周知を図る。 <目標助成割合> 令和4年度 41.7% <スケジュール> ・令和4年4月～11月 酪農家巡回の中で制度を周知 ・令和5年3月～ 補助金確定	
	目標設定の考え方 ・性判別精液や受精卵の導入経費は高額であることから、導入が進んでいないが、制度を周知し、毎年2戸ずつ、利用する酪農家を増やしていく。	目標設定の考え方 ・性判別精液や受精卵は高価であることから、導入が進んでいないが、制度を周知し、毎年2戸ずつ利用畜産農家を増やしていく。	
実 績	取組内容 ・対象酪農家21戸中、4戸に対し助成した ・助成割合実績：19%	取組内容 ・対象酪農家20戸中、2戸に対し助成した ・助成割合実績：10%	
達 成 度	目標達成度 C 計画通り実施されなかった	目標達成度 C 計画通り実施されなかった	
	次年度に向けての考え方 <分析> 制度周知に努めているものの、酪農家の経営判断の影響を受けたため助成割合実績が目標を下回った <次年度取組内容> 制度の周知をさらに強化し、性判別精液や受精卵の導入支援を進める	次年度に向けての考え方 <分析> 制度周知に努めているものの、飼料価格高騰や仔牛の価格下落などを考慮した酪農家の経営判断の影響を受けたため、助成割合実績が目標を下回った <次年度取組内容> 制度の周知をさらに強化するとともに、酪農家の経営状況を確認しながら性判別精液や受精卵の導入支援を進める	

千葉県農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略2 個別農家の持続性と経営力強化

方向性(2) 農業者のニーズに合わせた個別支援の充実

施策③ー災害に強い農林業の推進	
<p>・台風をはじめとする暴風雨や洪水、地震、これらに伴う停電など、災害による被害の発生防止と生産者の経営安定化を図るため、農政センター内への貸出用発電機の設置のほか、収入保険・農業施設共済への加入促進、ハウスの強靱化等に取組む。</p> <p>・暴風雨に伴う倒木の発生による交通網の遮断や送電線の破損を防ぐため、森林の適正な整備を推進する。</p>	
<p>実施事業ー災害時貸出用発電機の設置 主担当課：農業生産振興課</p>	
<p>＜計画期間の事業内容＞ 令和元年の台風15号では、予期せぬ長期停電が発生したことから、大きな農業被害が発生した。特に、施設野菜農家や畜産農家においては、施設・設備が稼働しないことにより栽培作物の枯死、生乳廃棄や牛の死亡・疾病の発生、家畜の死亡、体調不良の発生など大きな被害が発生した。そこで停電時の被害を未然に防ぐため、発電機を農政センターに設置し、災害時に必要とする農業者へ貸出を行う。</p>	
令和3年度	令和4年度
<p>✎取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✎</p> <p>＜取組内容＞ ○被害が大きい地区を速やかに巡回できる体制を予め構築する。 ○台風等襲来前に被害防止対策を農業者に提供する。</p> <p>＜目標＞ ・停電発生時に速やかに発電機の貸出を行えるよう、体制を構築する。 ・速やかに巡回体制を整える。</p> <p>＜スケジュール＞ 令和3年4月～ 自然災害に備え情報提供（発電機のリースや燃料確保のための店舗リストなど） 巡回体制の整理・シミュレーション</p>	<p>✎取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✎</p> <p>＜取組内容＞ ○被害が大きい地区を速やかに巡回できる体制を予め構築する。 ○台風等襲来前に被害防止対策を農業者に提供する。</p> <p>＜目標＞ ・停電発生時に速やかに発電機の貸出を行えるよう、体制を構築する。 ・速やかに巡回体制を整える。</p> <p>＜スケジュール＞ 令和4年4月～ 自然災害に備え情報提供（発電機のリースや燃料確保のための店舗リストなど） 巡回体制の整理・シミュレーション</p>
<p>✎目標設定の考え方</p> <p>・発電機の貸出に必要な、2tトラックや玉掛・クレーンの操作者を確保し、貸出の体制を構築する。 ・被害状況確認巡回を滞りなく行えるよう、台風シーズンが始まるまでに速やかに、当該年度の巡回体制を整え、シミュレーションを行う。</p>	<p>✎目標設定の考え方</p> <p>・発電機の貸出に必要な、2tトラックや玉掛・クレーンの操作者を確保し、貸出の体制を構築する。 ・被害状況確認巡回を滞りなく行えるよう、台風シーズンが始まるまでに速やかに、当該年度の巡回体制を整え、シミュレーションを行う。</p>
<p>✎取組内容</p> <p>・台風等が襲来する前に、農業者へ被害防止対策を戸別訪問により周知するとともに資料を郵送にて提供した。 ・発電機貸出シミュレーション演習を実施した。 ・部内で1人、新たにクレーン操作に係る資格を取得した。</p>	<p>✎取組内容</p> <p>・台風等が襲来する前に、農業者へ被害防止対策を戸別訪問により周知するとともに資料を郵送にて提供した。 ・発電機貸出シミュレーション演習を実施した。</p>
<p>✎目標達成度</p> <p style="text-align: center;">B 計画通り実施した</p>	<p>✎目標達成度</p> <p style="text-align: center;">B 計画通り実施した</p>
<p>✎次年度に向けての考え方</p> <p>台風等が襲来する前に被害防止対策資料を農業者に提供するとともに速やかな巡回体制を整える。</p>	<p>✎次年度に向けての考え方</p> <p>台風等が襲来する前に被害防止対策資料を農業者に提供するとともに速やかな巡回体制を整える。</p>

千葉県農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略2 個別農家の持続性と経営力強化

方向性(2) 農業者のニーズに合わせた個別支援の充実

施策③ー災害に強い農林業の推進	
<p>・台風をはじめとする暴風雨や洪水、地震、これらに伴う停電など、災害による被害の発生防止と生産者の経営安定化を図るため、農政センター内への貸出用発電機の設置のほか、収入保険・農業施設共済への加入促進、ハウスの強靱化等に取組む。</p> <p>・暴風雨に伴う倒木の発生による交通網の遮断や送電線の破損を防ぐため、森林の適正な整備を推進する。</p>	
<p>【重点事業】 実施事業ー収入保険への加入促進 主担当課：農業経営支援課</p>	
<p>＜計画期間の事業内容＞ 令和元年の台風15号による農業用施設や農作物被害は甚大であり、このように自然災害が農業経営に大きな影響を与える。本市農業の持続性を確保するためには、今後、同様の自然災害等を受けた際に、個々の農業経営への影響を最小限にすることが重要である。そこで、国の新たなセーフティネットである「収入保険制度」への加入促進を図るため、初年度掛け金の一部を助成する。</p>	
令和3年度の取組内容	令和4年度の取組内容
<p>✎取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✎</p> <p>＜取組内容＞ ○国のセーフティネットである収入保険制度への加入を促進するために、初年度掛金の3割を助成する。 ○認定農業者の新規認定者や再認定対象者に個別の加入プランを作成し、加入促進を図る。 ○農業委員会だよりで制度の周知を図る。</p> <p>＜加入件数目標＞ ・50経営体</p> <p>＜スケジュール＞ ・令和3年8月 農業委員会だよりで収入保険制度を周知 ・令和3年10月以降 前年度加入者へ補助金交付 ・令和3年12月末まで 翌年を補償期間とする収入保険に加入</p>	<p>✎取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✎</p> <p>＜取組内容＞ ○県がR4年度から、収入保険制度加入にかかる初年度掛金の一部を助成する事業を開始するため、県事業の周知を行い、加入促進を図る。</p> <p>＜加入件数目標＞ ・50経営体</p> <p>＜スケジュール＞ ・令和4年4月～ 県事業の周知を行い、加入促進を図る。</p>
<p>🎯目標設定の考え方</p> <p>・令和元年度末 認定農業者数は171経営体。 ・令和3、4年の各年度で50経営体が収入保険に加入することで認定農業者の半数程度の加入を目指す。</p>	<p>🎯目標設定の考え方</p> <p>・令和元年度末 認定農業者数は171経営体。 ・令和3、4年の各年度で50経営体が収入保険に加入することで認定農業者の半数程度の加入を目指す。</p>
<p>📌取組内容</p> <p>・農業委員会だよりや（一社）千葉県園芸協会総会での周知を図り、加入促進を行った。 ①R3加入者 4人（うち助成対象2人） ②R4加入者 10人（うち助成対象6人）</p>	<p>📌取組内容</p> <p>自然災害等の農業経営へのリスクをテーマにした講習会や農業委員会だよりで、収入保険制度及び「千葉県収入保険加入推進事業（収入保険制度加入にかかる初年度掛金の一部を助成）」の周知を図り、加入促進を行った。 ①R3加入者 4人（うち助成対象2人） ②R4加入者 11人（うち助成対象7人）</p>
<p>🎯目標達成度</p> <p style="text-align: center;">C 計画通り実施した</p>	<p>🎯目標達成度</p> <p style="text-align: center;">C 計画通り実施されなかった</p>
<p>🎯次年度に向けての考え方</p> <p>・加入促進を積極的に行ったが、制度のメリットの理解が進まず、加入者は目標値を下回った。 ・県がR4年度から、収入保険制度加入にかかる初年度掛金の一部を助成する事業を開始するため、県の事業の周知を行い、加入促進を図る。</p>	<p>🎯次年度に向けての考え方</p> <p>・加入促進を積極的に行ったが、制度のメリットの理解が進まず、加入者は目標値を下回った。 ・収入保険制度及び県事業の周知を行い、加入促進を図る。</p>
達成度	

千葉県農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略2 個別農家の持続性と経営力強化

方向性(2) 農業者のニーズに合わせた個別支援の充実

施策③ー災害に強い農林業の推進	
<p>・台風をはじめとする暴風雨や洪水、地震、これらに伴う停電など、災害による被害の発生防止と生産者の経営安定化を図るため、農政センター内への貸出用発電機の設置のほか、収入保険・農業施設共済への加入促進、ハウスの強靱化等に取組む。</p> <p>・暴風雨に伴う倒木の発生による交通網の遮断や送電線の被害を未然に防ぐため、森林の適正な整備を推進する。</p>	
<p>実施事業ー森林等の安全対策 主担当課：農業経営支援課</p>	
<p>＜計画期間の事業内容＞ 令和元年の台風で倒木による交通の遮断や停電が多数発生し、市民生活に大きな影響を与えた。このため自然災害による市民生活への被害を未然に防ぐ森林整備を進める。 重要インフラ（道路、電線など）施設に被害を及ぼす懸念があり、森林所有者の適切な森林の整備が期待できない森林で、インフラ施設周辺の森林において、風倒木等による被害を未然に防ぐため、市が主体となり森林所有者、インフラ施設管理者と協定を締結し、初年度に人工造林（伐採）を行う。次年度以降は、伐採の施行地において、原則2年以内に人工造林（植栽）を行う。</p>	
令和3年度	令和4年度
<p>✦取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✦</p> <p>＜取組内容＞ ○森林等の安全対策に向け、送電線施設など重要インフラ施設に近接する森林の整備に助成する。</p> <p>＜目標数値＞ ・伐採面積 2.0ha</p> <p>＜スケジュール＞ 1 国・県事業【伐採1.0ha、植栽1.32ha】 ・令和3年4月～ 整備箇所選定 ・令和3年10月 植栽開始 ・令和3年11月～ 伐採開始 2 市単独事業【伐採1.0ha】 ・令和3年4月～ 要件の決定、整備箇所選定 ・令和3年11月～ 伐採開始</p>	<p>✦取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✦</p> <p>＜取組内容＞ ○森林等の安全対策に向け、送電線施設など重要インフラ施設に近接する森林の整備に助成する。</p> <p>＜目標数値＞ ・伐採面積 2.0ha</p> <p>＜スケジュール＞ 1 国・県事業【伐採1.0ha、植栽1.08ha】 ・令和4年4月～ 整備箇所選定 ・令和4年10月 植栽開始 ・令和4年11月～ 伐採開始 2 市事業【伐採1.0ha、植栽0.42ha】 ・令和4年4月～ 整備箇所選定 ・令和4年10月 植栽開始 ・令和4年11月～ 伐採開始</p>
<p>✦目標設定の考え方</p> <p>・重要インフラ施設に近接する比較的まとまりのある森林について、関係機関や森林所有者と調整しながら整備を進めるため、災害に強い森づくり事業による整備面積（伐採面積）を目標とする。 ・伐採面積2haについては労働力確保、関係者と協定を締結する必要があるなどの制約があるため、実施可能面積として設定した。</p>	<p>✦目標設定の考え方</p> <p>・重要インフラ施設に近接する比較的まとまりのある森林について、関係機関や森林所有者と調整しながら整備を進めるため、災害に強い森づくり事業による整備面積（伐採面積）を目標とする。 ・伐採面積2haについては労働力確保、関係者と協定を締結する必要があるなどの制約があるため、実施可能面積として設定した。</p>
<p>✦取組内容</p> <p>・森林整備事業に対して助成した。 ①伐採1.5ha（県事業1.08ha、市事業0.42ha） ②植栽1.32ha（県事業1.32ha）</p>	<p>✦取組内容</p> <p>・森林整備事業に対して助成した。 ①伐採2.25ha（県事業1.74ha、市事業0.51ha） ②植栽1.5ha（県事業1.08ha、市事業0.42ha）</p>
<p>✦目標達成度</p> <p style="text-align: center;">C 計画通り実施した</p>	<p>✦目標達成度</p> <p style="text-align: center;">B 計画通り実施した</p>
<p>✦次年度に向けての考え方</p> <p>・インフラ管理者である電気事業者と事業候補地の情報共有を強化することで、市民生活に被害を及ぼす恐れのある森林の整備を進める。 ・森林整備について、これまで年1回の事業実施としていたが、複数回に分けて実施することで、事業実施主体である森林組合の労力負担を分散し、実施面積の増大を図る。</p>	<p>✦次年度に向けての考え方</p> <p>・インフラ管理者である電気事業者と事業候補地の情報共有を強化することで、市民生活に被害を及ぼす恐れのある森林の整備を進める。 ・森林整備については、事業実施を複数回に分けるとともに、年間作業の平準化により、事業実施主体である森林組合の労力負担を分散し、実施面積の増大を図る。</p>

千葉県農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略2 個別農家の持続性と経営力強化

方向性(2) 農業者のニーズに合わせた個別支援の充実

施策④ー小規模販売農家のビジネス化の推進

・小規模販売農家の生産・出荷等の現状を検証の上、農産物ECサイトを含めた新たな販路の開拓や飲食店とのマッチング支援等を行う。

実施事業ーECサイトを含めた新たな販路の開拓支援

主担当課：農政課

<計画期間の事業内容>

生産量の少ない小規模販売農家において、収益性を向上させる一つの手法としては、販売単価を上げることである。そこで、農家ごとに生産品目、生産量、他の出荷形態との組み合わせやバランスなどを考慮し、より有利な販売が可能となるよう、農産物ECサイトを含めた新たな販路の開拓を支援する。

令和3年度の実績		令和4年度の実績	
計 画	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> 生産者ごとに最適な販売方法を考慮し、新たな販路として、EC販売等の紹介等を行う。 <目標> EC販売に関する説明会 2回 <スケジュール> 随時 個別相談、EC事業者紹介	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> 生産者ごとの最適な販売方法を考慮し、新たな販路として、EC販売等の紹介等を行う。 <目標> EC販売に関する説明会 2回 <スケジュール> 随時 個別相談、EC事業者紹介	
	目標設定の考え方 農業者の販路を多様化させるとともに、市民が地元千葉市の農産物を買える機会を増やす。	目標設定の考え方 農業者の販路を多様化させるとともに、市民が地元千葉市の農産物を買える機会を増やす。	
実 績	取組内容 ・EC事業者による説明会を1回開催 8事業者が参加し、うち1事業者が導入 ・やさいバス説明会を1回開催 農業者12人が参加 R3末時点で生産者16、購入者39の市内事業者が参画中	取組内容 ・ECサイトでの販売に向け、商談会を2回開催。 1回目は10件の農業者が参加。2回目は7件が取扱いに向けた具体的な商談を実施。	
達 成 度	目標達成度 B 計画通り実施した 次年度に向けての考え方 農業者の生産量や意向に沿った販売手法を提案すべく、農産物ECサイトに限らず、やさいバスやクックパッドなど、多様なサービスについて、説明会の開催等を通して、継続的な情報提供とマッチングの機会創出を図っていく。	目標達成度 B 計画通り実施した 次年度に向けての考え方 食のブランド「千」認定品を中心に、千葉県産農産物の取扱いについて、継続して商談及びマッチングの機会を創出し、生産者の所得向上を目指す。	

千葉県農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略2 個別農家の持続性と経営力強化

方向性(2) 農業者のニーズに合わせた個別支援の充実

施策④ー小規模販売農家のビジネス化の推進

・小規模販売農家の生産・出荷等の現状を検証の上、農産物ECサイトを含めた新たな販路の開拓や飲食店とのマッチング支援等を行う。

実施事業ー飲食店等とのマッチング支援

主担当課：農政課

<計画期間の事業内容>

市内産農産物を求める飲食店は多いが、必要量が限られているため、市場出荷を中心としている大規模農家では対応が困難であるが、小規模農家の場合は比較的小回りが利き、個別の対応も可能である。小規模販売農家の収益を向上させるため、また、販売チャネルを増やすことはリスク分散にもなることから、市内飲食店を中心に農家と事業者との個別マッチングを支援する。

令和3年度の実績		令和4年度の実績	
計画	令和3年度の実績	計画	令和4年度の実績
計画	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> 生産者ごとの最適な販売方法を考慮し、新たな販路として、飲食店等と農家の個別マッチングを行う。 <目標> 個別マッチング回数 5件 <スケジュール> 随時 個別相談、個別マッチング	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> 生産者ごとの最適な販売方法を考慮し、新たな販路として、飲食店等と農家の個別マッチングを行う。 <目標> 個別マッチング回数 5件 <スケジュール> 随時 個別相談、個別マッチング	
	目標設定の考え方 R3年度 つくたへ推進店登録店の追加目標 5件	目標設定の考え方 R4年度 つくたへ推進店登録店の追加目標 5件	
実績	取組内容 個別マッチング3件 (いずれも既存のつくたへ推進店への紹介)	取組内容 個別マッチング17件	
達成度	目標達成度 C 計画通り実施されなかった	目標達成度 A 計画以上の成果があった	
	次年度に向けての考え方 コロナ禍に伴う、飲食店の営業時間制限もあり、飲食店からの引合いは減少したが、スーパー等の小売店からの問合せが増えていることから、飲食店への来客数が回復するまでは、小売店への比重を高め、マッチングの機会を創出する。	次年度に向けての考え方 スーパー・百貨店等の小売事業者、製造事業者、EC販売事業者といった多様な事業者から地産品の取扱いの要望が出ていることから、引続き飲食店に限らず多様な事業者とのマッチング機会を創出する。	

千葉市農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略3 農業・農村と森林の持つ多面的機能の活用による魅力と交流の創出

方向性(1) 千葉市農業とふれ合う場・機会の充実

施策①ーグリーンツーリズムの推進

- ・乳牛育成牧場跡地に本市の農業や自然とふれ合う観光拠点を整備し、「味わう」「買う」「泊まる」といった様々なコンテンツを提供して交流人口の増加を図る。
- ・いずみグリーンビレッジに立地する富田、下田、中田の3拠点施設を活用し、花畑や地元農畜産物のレストラン、収穫体験農園など、市内外からの集客を図る。また、大学と連携し、大学生の自由な発想で地域のPRや魅力発信イベントを開催する。
- ・都市住民と農業者との交流の促進につながるプラットフォームを活用し、都市と農村との交流を創出する。

【重点事業】

実施事業ー観光拠点の整備

主担当課：農政課

関係課：農業生産振興課

<計画期間の事業内容>

市内陸部の諸資源を活かした観光誘客による賑わいを創出するため、民間活力を導入し、新たな観光拠点を整備する。

令和3年度の実績		令和4年度の実績	
計 画	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○令和2年10月にオープンした乳牛育成牧場跡地に整備された観光拠点を核に、周辺施設と連携したコンテンツを提供することで、都市と農村の交流人口の増加を図る。 <目標> 周辺のいちご農園やGV施設等の周辺施設と連携したコンテンツを新たに1件以上提供し、都市と農村の交流人口の増加を図る。 <スケジュール> 随時 周辺施設と連携したコンテンツの提供	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○令和2年10月にオープンした乳牛育成牧場跡地に整備された観光拠点を核に、観光拠点来場者を地域に周遊させる取組を実施する。 <目標> 観光拠点を中心としたドライブコースを造成し、ドライブコースを掲載したPR用パンフレットを作成することにより、周辺に点在している観光資源を「面」として連携させることで、観光拠点の来場者を周辺の観光拠点に周遊させ、更なる都市と農村の交流人口の増加を図る。 <スケジュール> 随時 観光拠点の来場者を周辺の観光拠点に周遊させる事業の実施	
	目標設定の考え方 ・毎年、周辺施設と連携した新たなコンテンツの提供を目指す。	目標設定の考え方 ・目標を大きく上回る観光拠点の来場者を地域に周遊させるため、マイカーでの来訪が前提である当該エリアを効率的に周遊するためのドライブコースを造成し、PRを実施する。	
実 績	取組内容 周辺の農業者やいちご農園が生産した新鮮な野菜やイチゴを観光拠点で販売するイベント※を実施し、都市と農村の交流人口の増加が図られた。 ※「とみだマルシェ（毎週土曜開催）」	取組内容 観光部局と連携し、「チハノサトドライブ散歩MAP」を作成・配布するとともに、動画を製作してホームページに掲載した。 ・発行回数 2回（夏秋・冬春） ・ドライブコース数 6コース ・動画 4本（3分程度：1本、30秒程度：3本） 富田マルシェも毎週土曜開催（春のいちごフェア、秋の満腹祭など）	
達 成 度	目標達成度 B 計画通り実施した	目標達成度 B 計画通り実施した	
	次年度に向けての考え方 <分析> 観光拠点の来場者は目標を大きく上回っているが、周辺施設と連携したコンテンツが不足している。 <次年度取組内容> 観光拠点の来場者数を増やす取組から来場者を地域に周遊させる取組へと発展させる。	次年度に向けての考え方 <分析> ドライブ散歩MAPを作成し、ホームページに掲載するなど、点在する観光拠点を周遊させるための環境整備を行ったが、効果を持続させるためには、継続的な取り組みが必要である。 <次年度取組内容> 観光部局と連携した各種PRを切れ目なく展開することで、グリーンエリア全体の周遊性を高め、都市と農村の交流人口の増加を図る。	

千葉市農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略3 農業・農村と森林の持つ多面的機能の活用による魅力と交流の創出

方向性(1) 千葉市農業とふれ合う場・機会の充実

施策①ーグリーンツーリズムの推進

- ・乳牛育成牧場跡地に本市の農業や自然とふれ合う観光拠点を整備し、「味わう」「買う」「泊まる」といった様々なコンテンツを提供して交流人口の増加を図る。
- ・いずみグリーンビレッジに立地する富田、下田、中田の3拠点施設を活用し、花畑や地元農畜産物のレストラン、収穫体験農園など、市内外からの集客を図る。また、大学と連携し、大学生の自由な発想で地域のPRや魅力発信イベントを開催する。
- ・都市住民と農業者との交流の促進につながるプラットフォームを活用し、都市と農村との交流を創出する。

実施事業ーいずみグリーンビレッジ3拠点施設を活用した地域の活性化 主担当課：農政課

<計画期間の事業内容>

いずみ地区の更なる活性化を図るため、3拠点を繋ぐ施策を推進するとともに、地域資源を活用し、学生・地元・参入企業による地域おこし事業などを行う。

令和3年度の実行計画		令和4年度の実行計画	
計 画	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○いずみ地区の更なる活性化を図るため、3拠点を周遊させる施策を推進する。 ○学生・地元等と連携し、地域おこし事業などを実施する。 <目標> ・3拠点を周遊させる施策を実施する。 ・学生や地元等が実施する地域おこし事業を支援する。 <スケジュール> 随時 3拠点施設を繋ぐ施策の検討・実施 随時 学生・地元等と連携する施策の検討・実施	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○いずみ地区の更なる活性化を図るため、3拠点施設を繋ぐ施策を推進する。 ○学生・地元等と連携し、地域おこし事業などを実施する。 <目標> ・3拠点施設を繋ぐ施策を実施する。 ・学生・地元等と連携し地域おこしに関する施策を実施する。 <スケジュール> 随時 3拠点施設を繋ぐ施策の検討・実施 随時 学生・地元等と連携する施策の検討・実施	
	目標設定の考え方 ・3拠点施設を繋ぐ施策や学生・地元等と連携し地域おこしに関する施策の実施を目指す。	目標設定の考え方 ・3拠点施設を繋ぐ施策や学生・地元等と連携し地域おこしに関する施策の実施を目指す。	
	取組内容 ・3拠点はもとより、近隣の施設を周遊させるため、令和2年10月にオープンした新たな観光拠点など、新しいスポットを加えて、いずみまるごとマップを更新した。 ・大学や地元と連携し、いずみハロウィンキャンドルナイトを開催した。	取組内容 ・「チバノサトドライブ散歩MAP」に3拠点を掲載した。 ・大学や地元と連携し、いずみハロウィンキャンドルナイトを開催した。	
実 績	目標達成度 B 計画通り実施した	目標達成度 B 計画通り実施した	
	次年度に向けての考え方 <分析> マップ更新により3拠点の周遊性は向上したが、いずみ地区全体が一体となるような取組が不足している。 <次年度取組内容> いずみ地区の更なる活性化を図るため、3拠点を繋ぐ施策を推進するとともに、学生・地元等と連携し、地域資源を活用した地域おこし事業などを実施する。	次年度に向けての考え方 <分析> 「チバノサトドライブ散歩MAP」への掲載により3拠点の周遊性はより向上したが、いずみ地区全体が一体となるような取組が不足している。 <次年度取組内容> いずみ地区の更なる活性化を図るため、3拠点を繋ぐ施策を推進するとともに、学生・地元等と連携し、地域資源を活用した地域おこし事業などを実施する。	
達 成 度			

千葉市農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略3 農業・農村と森林の持つ多面的機能の活用による魅力と交流の創出

方向性(1) 千葉市農業とふれ合う場・機会の充実

施策①ーグリーンツーリズムの推進

- ・乳牛育成牧場跡地に本市の農業や自然とふれ合う観光拠点を整備し、「味わう」「買う」「泊まる」といった様々なコンテンツを提供して交流人口の増加を図る。
- ・いずみグリーンビレッジに立地する富田、下田、中田の3拠点施設を活用し、花畑や地元農畜産物のレストラン、収穫体験農園など、市内外からの集客を図る。また、大学と連携し、大学生の自由な発想で地域のPRや魅力発信イベントを開催する。
- ・都市住民と農業者との交流の促進につながるプラットフォームを活用し、都市と農村との交流を創出する。

実施事業ー新たなプラットフォームを活用した都市と農村の交流の創出 主担当課：農政課

<計画期間の事業内容>

主に学生や若者をターゲットにした都市住民と農業者との交流の促進につながるプラットフォームを活用し、都市と農村との交流を創出するとともに、交流後の意向の変化などを調査、分析し、今後の担い手育成施策にも活用する。

令和3年度の実績		令和3年度の実績	令和4年度の実績
計 画	令和3年度の実績	令和4年度の実績	令和4年度の実績
	令和3年度の実績	令和4年度の実績	令和4年度の実績
実 績	令和3年度の実績	令和4年度の実績	令和4年度の実績
	令和3年度の実績	令和4年度の実績	令和4年度の実績
達 成 度	令和3年度の実績	令和4年度の実績	令和4年度の実績
	令和3年度の実績	令和4年度の実績	令和4年度の実績

千葉市農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略3 農業・農村と森林の持つ多面的機能の活用による魅力と交流の創出

方向性(1) 千葉市農業とふれ合う場・機会の充実

施策②—都市農地の保全と本市農業の多様な分野での活用促進

- ・都市農地は、市街地における防災や良好な景観形成、ヒートアイランド現象緩和など多様な環境形成機能を有していることから、公園や水辺といった身近な緑地と同様、都市農地を計画的に保全できるよう取り組む。
- ・都市農地を保全するため、生産緑地への新規・追加指定及び特定生産緑地への指定を推進する。また、平成30年の都市農地借地法の制定により、相続税納税猶予を受けた生産緑地について、相続税納税猶予を継続したままでの賃貸借が可能となる。こうした新たな制度も活用しながら農地の賃貸借のマッチングを推進することで、保全と担い手確保の両立を図る。
- ・生産緑地法の一部改正により、生産緑地における農産物加工施設や直売所、農家レストランの設置が可能となった。市民が本市農業を身近に感じられる場として、今後の農地の有効活用につなげていく。
- ・国の「農福連携等推進ビジョン」に基づく支援事業の動向を捉えながら、本市における農福連携を検討する。
- ・いずみ地区には、障がい者用車いすを製作する、この分野を代表する企業が立地しており、高齢者や障がい者も、車いすで働ける農業環境づくりに取り組む。
- ・農政センターやいずみグリーンビレッジ等への社会見学を実施し、児童生徒が本市の農業を身近に感じ、理解を深めるよう努める。
- ・学校給食への市内産農産物の供給や生産者と連携した出張授業の実施、収穫体験など本市農業を身近に感じる学習や体験の機会を通じ、児童生徒や消費者の本市農業への理解を深める。
- ・このほか、民間事業者による市民農園の整備・維持や農地の持つ防災機能の役割を活かした防災協力農地の検討など、千葉市農業に対する消費者の理解促進と、本市農業の多面的機能の発揮に向けた取組みを推進する。

実施事業—社会見学の実施

主担当課：農政課
関係課：農業経営支援課

<計画期間の事業内容>

いずみグリーンビレッジや農政センターなどへの社会見学を実施し、児童生徒が本市の農業を身近に感じ、理解を深める。

令和3年度の実行内容

令和4年度の実行内容

	令和3年度の実行内容	令和4年度の実行内容
計 画	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○本市農業について理解を深めるため、小学生等の施設見学及び収穫体験を実施する。 <目標数値> ・農政センター見学受入校数 約40校 ・いずみグリーンビレッジ 事業実施 <スケジュール> (農政センター) ・令和3年6月～令和4年1月 施設見学・収穫体験の実施(いずみグリーンビレッジ) ・随時 検討、実施	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○本市農業について理解を深めるため、小学生等の施設見学及び収穫体験を実施する。 <目標数値> ・農政センター見学受入校数 約40校 ・いずみグリーンビレッジ 事業実施 <スケジュール> (農政センター) ・令和4年6月～令和5年1月 施設見学・収穫体験の実施(いずみグリーンビレッジ) ・随時 検討、実施
	目標設定の考え方 ・農政センター見学受入校数については、令和3年度の小学校等の受入予定数 ・いずみグリーンビレッジでは、児童生徒を対象とした収穫体験を行っていないことから、事業を実施することを目標とする。	目標設定の考え方 ・農政センター見学受入校数については、令和3年度の受入予定数と同程度を設定 ・いずみグリーンビレッジでは、令和3年度に実施したこどもルームの児童を対象とした事業を継続する。
実 績	取組内容 ・農政センター見学受入校数 32校 ・富田さとにわ耕園において、こどもルームの児童を対象に、収穫体験事業を実施した。 3回 計856人	取組内容 ・農政センター見学受入校数 32校 ・富田さとにわ耕園において、こどもルームの児童を対象に、収穫体験事業を実施した。 4回 計926人
達 成 度	目標達成度 B 計画通り実施した	目標達成度 B 計画通り実施した
	次年度に向けての考え方 農政センターの見学については、学校側の都合（他行事等）によるキャンセルがあったため、目標達成には至らなかったが、毎年継続的に見学の要望があるなど、好評であることから、翌年度も受入れを行うほか、いずみグリーンビレッジの拠点を活用した、児童生徒向けの事業を検討・実施する。	次年度に向けての考え方 農政センターの見学については、学校側の都合（他行事等）によるキャンセルがあったため、目標達成には至らなかったが、毎年継続的に見学の要望があるなど、好評であることから、翌年度も受入れを行う。また、いずみグリーンビレッジの拠点を活用した、児童生徒向けの事業を検討・実施する。

千葉市農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略3 農業・農村と森林の持つ多面的機能の活用による魅力と交流の創出

方向性(1) 千葉市農業とふれ合う場・機会の充実

施策②—都市農地の保全と本市農業の多様な分野での活用促進

- ・都市農地は、市街地における防災や良好な景観形成、ヒートアイランド現象緩和など多様な環境形成機能を有していることから、公園や水辺といった身近な緑地と同様、都市農地を計画的に保全できるよう取り組む。
- ・都市農地を保全するため、生産緑地への新規・追加指定及び特定生産緑地への指定を推進する。また、平成30年の都市農地借地法の制定により、相続税納税猶予を受けた生産緑地について、相続税納税猶予を継続したままでの賃貸借が可能となる。こうした新たな制度も活用しながら農地の賃貸借のマッチングを推進することで、保全と担い手確保の両立を図る。
- ・生産緑地法の一部改正により、生産緑地における農産物加工施設や直売所、農家レストランの設置が可能となった。市民が本市農業を身近に感じられる場として、今後の農地の有効活用につなげていく。
- ・国の「農福連携等推進ビジョン」に基づく支援事業の動向を捉えながら、本市における農福連携を検討する。
- ・いすみ地区には、障がい者用車いすを製作する、この分野を代表する企業が立地しており、高齢者や障がい者も、車いすで働ける農業環境づくりに取り組む。
- ・農政センターやいすみグリーンビレッジ等への社会見学を実施し、児童生徒が本市の農業を身近に感じ、理解を深めるよう努める。
- ・学校給食への市内産農産物の供給や生産者と連携した出張授業の実施、収穫体験など本市農業を身近に感じる学習や体験の機会を通じ、児童生徒や消費者の本市農業への理解を深める。
- ・このほか、民間事業者による市民農園の整備・維持や農地の持つ防災機能の役割を活かした防災協力農地の検討など、千葉市農業に対する消費者の理解促進と、本市農業の多面的機能の発揮に向けた取組みを推進する。

実施事業一次世代向け農育講座の実施

主担当課：農政課
関係課：農業経営支援課
農業生産振興課

<計画期間の事業内容>

小学校高学年及び中学生向けのハイレベルな本格的農業講座
年間10回開催 土壌学、肥料学、植物生理学、ポストハーベスト学、農業経営学など、身近な体験に落とし込み、「気づきと発見」を与える講座を提供する。農政センターにおける実地プログラムも実施する。

令和3年度の実行内容

令和4年度の実行内容

	令和3年度の実行内容	令和4年度の実行内容
計 画	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> 市内小・中学生に対し、農業と触れ合う場及び機会を提供し、将来の職業選択の一つとして農業を理解し、関心を持ってもらうことを目的とした、農業に関する講座を実施する。 <目標> 講座実施数18回、受講者360人(のべ) <スケジュール> 令和3年6月 事業者募集・決定 令和3年7月 受講者募集 令和3年8月～12月 講座実施	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> 市内小・中学生に対し、農業と触れ合う場及び機会を提供し、将来の職業選択の一つとして農業を理解し、関心を持ってもらうことを目的とした、農業に関する講座を実施する。 <目標> 講座実施数20回、受講者400人(のべ) <スケジュール> 令和4年4月 事業者募集・決定 令和4年5月 受講者募集 令和4年6月～翌2月 講座実施
	目標設定の考え方 ・小学3・4年生、5・6年生、中学1・2年生の3クラスを対象として、それぞれ6講座 3クラス×6講座 ・30人参加型×9講座、10人参加型×9講座	目標設定の考え方 ①連続講座 9回 定員20人×9回 ②単発講座 11回 定員20人×11回
実 績	取組内容 講座実施数18回 受講者207人(のべ) [内訳] 小学3・4年生 6講座 受講者80人 小学5・6年生 6講座 受講者73人 中学1・2年生 6講座 受講者54人	取組内容 講座実施数20回 受講者316人(のべ) [内訳] (単発講座) 小学3・4年生 173人 (連続講座) 小学5・6年生 122人 中学1・2年生 21人
達 成 度	目標達成度 B 計画通り実施した	目標達成度 B 計画通り実施した
	次年度に向けての考え方 <分析> ・受講者数は目標を下回ったが、計画通りに講座を実施し、子ども、保護者ともに高い満足度を得ることができた。 ・講座によっては高倍率となり(定員20人に対し募集90人超)、また複数回参加するリピーターもいるなど、対象者の興味を惹きつける講座の提供ができた。 <次年度取組内容> ・農業に対する小・中学生の更なる興味、関心を深掘りするために、一年を通して、一つのテーマをもとに連続で参加できる講座の実施を検討する。	次年度に向けての考え方 <分析> ・計画通りに講座を実施し、子ども、保護者ともに高い満足度を得ることができた。 ・連続講座、単発講座ともに、複数の講座に参加するリピーターが見受けられ、参加者の興味を惹きつける講座の提供ができた。 <次年度取組内容> ・R4年度に引続き、一つのテーマに基づき年間を通じた連続講座を実施することで、より専門的かつ体系的に学ぶ講座を提供するとともに、農への興味関心を持つきっかけとなる一講座完結の単発講座を開催する。

千葉市農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略3 農業・農村と森林の持つ多面的機能の活用による魅力と交流の創出

方向性(1) 千葉市農業とふれ合う場・機会の充実

施策②—都市農地の保全と本市農業の多様な分野での活用促進

- ・都市農地は、市街地における防災や良好な景観形成、ヒートアイランド現象緩和など多様な環境形成機能を有していることから、公園や水辺といった身近な緑地と同様、都市農地を計画的に保全できるよう取り組む。
- ・都市農地を保全するため、生産緑地への新規・追加指定及び特定生産緑地への指定を推進する。また、平成30年の都市農地借地法の制定により、相続税納税猶予を受けた生産緑地について、相続税納税猶予を継続したままでの賃貸借が可能となる。こうした新たな制度も活用しながら農地の賃貸借のマッチングを推進することで、保全と担い手確保の両立を図る。
- ・生産緑地法の一部改正により、生産緑地における農産物加工施設や直売所、農家レストランの設置が可能となった。市民が本市農業を身近に感じられる場として、今後の農地の有効活用につなげていく。
- ・国の「農福連携等推進ビジョン」に基づく支援事業の動向を捉えながら、本市における農福連携を検討する。
- ・いすみ地区には、障がい者用車いすを製作する、この分野を代表する企業が立地しており、高齢者や障がい者も、車いすで働ける農業環境づくりに取り組む。
- ・農政センターやいすみグリーンビレッジ等への社会見学を実施し、児童生徒が本市の農業を身近に感じ、理解を深めるよう努める。
- ・学校給食への市内産農産物の供給や生産者と連携した出張授業の実施、収穫体験など本市農業を身近に感じる学習や体験の機会を通じ、児童生徒や消費者の本市農業への理解を深める。
- ・このほか、民間事業者による市民農園の整備・維持や農地の持つ防災機能の役割を活かした防災協力農地の検討など、千葉市農業に対する消費者の理解促進と、本市農業の多面的機能の発揮に向けた取組みを推進する。

【重点事業】

実施事業—消費者への「農育」の実施

主担当課：農政課

<計画期間の事業内容>

市内農業や農産物、地産地消への関心・理解を得るため、消費者に対し、収穫体験や出張授業などを行い、体験学習を通して、農業の楽しさや楽しさを身に付け学ぶ“農育”を行う。

令和3年度の実行内容

令和4年度の実行内容

	令和3年度の実行内容	令和4年度の実行内容
計 画	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> 市内農業や農産物への理解を深めるため、市内小学生を対象とした生産者出張授業や、小学生を含む家庭を対象とした親子一日農家体験等を実施する。 <目標> 生産者出張授業等 8回 親子一日農家体験 2回 <スケジュール> 令和3年6月～令和4年2月 生産者出張授業 令和3年10月 親子一日農家体験	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> 市内農業や農産物への理解を深めるため、市内小学生を対象とした生産者出張授業や、小学生を含む家庭を対象とした親子一日農家体験等を実施する。 <目標> 生産者出張授業等 8回 親子一日農家体験 2回 <スケジュール> 令和4年6月～令和5年2月 生産者出張授業 令和4年9月 親子一日農家体験
	目標設定の考え方 生産者出張授業については、市内小学校のうち、農業に触れる機会の少ない小学校を主な対象とし、給食で提供される農産物の種類、農業者、JA等出荷団体との調整により、実施可能数を設定。 親子一日農家体験については、協力農家の受入れ可能数から設定	目標設定の考え方 生産者出張授業については、市内小学校のうち、農業に触れる機会の少ない小学校を主な対象とし、給食で提供される農産物の種類、農業者、JA等出荷団体との調整により、実施可能数を設定。 親子一日農家体験については、協力農家の受入れ可能数から設定
実 績	取組内容 ・生産者出張授業及び出前講座を、計7回実施 6月：春夏ニンジン×2回、9月：牛乳、10月：コム 11月：キャベツ・コマツナ、1月：秋冬ニンジン ・親子一日農家体験を、9月26日・27日の2回実施 参加者：26日 33人、27日 41人 計74人	取組内容 ・生産者出張授業を、計7回実施 6月：春夏ニンジン、7月：コム、9月：有機コマツナ、 11月：キャベツ・コマツナ、12月：牛乳、1月：秋冬ニンジン ・親子一日農家体験を、9月23日・24日の2回実施 参加者：23日 25人、24日 23人 計48人
達 成 度	目標達成度 B 計画通り実施した	目標達成度 B 計画通り実施した
	次年度に向けての考え方 親子一日農家体験において、申込数が定員の10倍を超えるなど、学習や体験の機会へのニーズが高まっていることから、次年度以降も継続して事業を実施する。	次年度に向けての考え方 親子一日農家体験は、定員を上回っての申込が得られ、参加者の満足度も高いことから、次年度以降の継続を検討する。 なお、当該事業については、協力農家の選定の必要性が生じており、実施品目の見直しを含め実施に向けた検討を進める

千葉市農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略3 農業・農村と森林の持つ多面的機能の活用による魅力と交流の創出

方向性(2) 豊かな農地・農村環境と森林環境の整備

施策①－耕作放棄地対策の推進

- ・耕作放棄地の発生防止と解消を進めるため、農業委員会やJA等の関係機関と連携し、農地と担い手とのマッチングを促進する。また、耕作放棄地の再生を図るため、費用の助成や機材の貸出し等を行う。
- ・緑肥作物を利用した土づくりや、ハナナ、ヒマワリ、コスモス等の景観形成作物の栽培に取り組む農業者への種子の配布等を行い、耕作放棄地の発生防止と農地の有効利用を促進する。
- ・立地条件が特に良好な耕作放棄地については、新たな補助制度の創設を検討し、耕作放棄地の再生を図る。
- ・所有者不明農地については農業委員会と連携し、その改善に取り組む。

実施事業－緑肥作物及び景観形成作物の取組みに対する支援

主担当課：農業生産振興課

<計画期間の事業内容>

環境に配慮し持続的な農業生産を推進するため、緑肥作物を利用した土づくりを進めるとともに、ヒマワリ・ハナナ等の栽培を進め、農地の有効利用を推進する。

令和3年度の取組内容		令和4年度の取組内容	
計 画	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> 緑肥作物種子の購入を助成するとともに、景観形成作物の種子を取組農家へ配付する。 <目標数値> ・令和2年度（事業開始）：30ha計画（各野菜生産出荷組織） ・令和3年度：40ha（各野菜生産出荷組織） <スケジュール> ①緑肥作物種子購入助成 令和3年4月 要望取りまとめ 令和3年5月～ 事業実施 ②景観形成作物種子の配付 令和3年5月 種子の配付 令和4年3月～ 次年度要望取りまとめ	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> 緑肥作物種子の購入を助成するとともに、景観形成作物の種子を取組農家へ配付する。 <目標数値> ・令和4年度：40ha（各野菜生産出荷組織） <スケジュール> ①緑肥作物種子購入助成 令和4年4月 要望取りまとめ 令和4年5月～ 事業実施 令和5年3月 検証 ②景観形成作物種子の配付 令和4年5月 種子の配付 令和5年3月～ 次年度要望取りまとめ	
	目標設定の考え方 ・千葉東部地区出荷組合連合会（ニンジン部会） ：25ha/40ha、62.5% ・土気地区出荷組合連合会（ニンジン部会） ：7.5ha/15ha、50% ・幕張地区出荷組合連合会（ニンジン部会） ：7.5ha/15ha、50% 合計40ha/70ha、57%	目標設定の考え方 ・千葉東部地区出荷組合連合会（ニンジン部会） ：25ha/40ha、62.5% ・土気地区出荷組合連合会（ニンジン部会） ：7.5ha/15ha、50% ・幕張地区出荷組合連合会（ニンジン部会） ：7.5ha/15ha、50% 合計40ha/70ha、57%	
実 績	取組内容 合計33.1ha/70ha、47%（千葉東部地：15.5ha、38.75%、土気地区：12.6ha、84%、幕張地区：5ha、33.3%）	取組内容 合計31.3ha/70ha、45%（千葉東部地：12.1ha、30.25%、土気地区：17.4ha、116%、幕張地区：1.8ha、12%）	
達 成 度	目標達成度 C 計画通り実施されなかった	目標達成度 C 計画通り実施されなかった	
	次年度に向けての考え方 R3年度は一部の地区を除き目標を下回ったが、環境に配慮し持続的な農業生産を推進するため、JA千葉みらいと協議し活用を促進する。	次年度に向けての考え方 R4年度は、募集時期を前倒しする等の工夫をしたが、緑肥種子価格高騰（ハイオーツR3 810円→R4 920円）のため、目標を下回った。環境に配慮し持続的な農業生産を推進するため、JA千葉みらいと協議し活用を促進するほか、これまで以上に周知を図る。	

千葉市農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略3 農業・農村と森林の持つ多面的機能の活用による魅力と交流の創出

方向性(2) 豊かな農地・農村環境と森林環境の整備

施策②－有害鳥獣対策の推進

・有害鳥獣による農作物被害を軽減するため、地域住民で組織する協議会の捕獲活動や農地の適正管理活動等を支援するとともに、農通知システム等のIoT技術活用を推進する。また、専門家と連携し、地域の実情に応じた効果的な被害防止体制の構築に取組む。
 ・県のイノシシ棲み家撲滅対策事業（H30年度～R2年度）が終了するため、継続して対策できるよう、本市独自の支援策を検討する。

【重点事業】

実施事業一地域住民を中心とした有害鳥獣対策への支援

主担当課：農業経営支援課

<計画期間の事業内容>

IoTの活用（農通知システム等）、「農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー」との連携等を図りながら、地域住民による協議会を主体とした、地域の特性や実情に合わせた有害鳥獣対策を支援する。

令和3年度の実績		令和3年度の実績	令和4年度の実績
計 画	令和3年度の実績	令和3年度の実績	令和4年度の実績
	令和4年度の実績	令和4年度の実績	令和4年度の実績
実 績	令和3年度の実績	令和3年度の実績	令和4年度の実績
	令和4年度の実績	令和4年度の実績	令和4年度の実績
達 成 度	令和3年度の実績	令和3年度の実績	令和4年度の実績
	令和4年度の実績	令和4年度の実績	令和4年度の実績

千葉市農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略3 農業・農村と森林の持つ多面的機能の活用による魅力と交流の創出

方向性(2) 豊かな農地・農村環境と森林環境の整備

施策③－豊かな農地・農村環境の保全

- ・農地・農村の良好な景観や環境保全活動を行う組織を支援するとともに、新たな活動組織の掘り起こしに努める。
- ・農村の水環境保全と地域住民の潤いの場提供のため、市内の水環境施設（親水施設）の適切な維持管理を行う。
- ・市街地に近接して緑地や農地が多く存在し、自然豊かな農業景観が広がっており、こうした緑豊かな景観の保全・活用を図るため、「千葉市景観計画」への位置付けを検討する。

実施事業－集落保全活動の維持・支援

主担当課：農政課

<計画期間の事業内容>

農業・農村が有する良好な景観及び自然環境の保全等、多面的な効果を発揮させるため、地域で保全活動を実施している組織に支援を行うとともに新たな活動組織の掘り起こしを行う。

令和3年度の実行内容

令和4年度の実行内容

	令和3年度の実行内容	令和4年度の実行内容
計 画 画	<p>✂取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✂</p> <p><取組内容> 農地・農村の良好な景観や環境保全活動を行う組織（8組織）を支援する。また、新たな活動組織の掘り起こしに努める。</p> <p><目標> 新たな活動組織の掘り起こし</p> <p><スケジュール> 7月交付申請、8月交付金支払、3月実績報告 通年：新たな活動組織の掘り起こし。高齢化している活動組織において事業を継続できるよう支援</p>	<p>✂取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✂</p> <p><取組内容> 農地・農村の良好な景観や環境保全活動を行う組織（7組織）を支援し、事務手続きのサポートを行う。また、新たな活動組織の掘り起こしに努める。</p> <p><目標> 新たな活動組織の掘り起こし</p> <p><スケジュール> 7月交付申請、8月交付金支払、3月実績報告 通年：新たな活動組織の掘り起こし。高齢化している活動組織において事業を継続できるよう支援</p>
	<p>✂目標設定の考え方</p> <p>農業団体との協議会及び講習会等で当該交付金制度を広く周知し、新規活動組織を掘り起こしに努める。</p>	<p>✂目標設定の考え方</p> <p>農業団体との協議会及び講習会等で当該交付金制度を広く周知し、新規活動組織を掘り起こしに努める。</p>
実 績	<p>✂取組内容</p> <p>令和3年度 活動組織 8組織 <スケジュール> 7月 交付申請 8月 交付金支払 3月 実績報告</p>	<p>✂取組内容</p> <p>令和4年度 活動組織 7組織 <スケジュール> 7月 交付申請 8月 交付金支払 3月 実績報告</p>
達 成 度	<p>✂目標達成度</p> <p>C 計画通り実施されなかった</p>	<p>✂目標達成度</p> <p>C 計画通り実施されなかった</p>
	<p>✂次年度に向けての考え方</p> <p><分析> ・1組織（小食土地区）が新規で参加予定であったが、人員の確保が困難なこと、事務手続きが煩雑であることを理由に不参加となった。 ・1組織（中田地区）が事務を行う人員の確保が困難であることを理由に次年度の更新を行わない連絡があり、令和4年度は7組織となる。</p> <p><次年度取組内容> ・興味を示している地区があるため、事業説明を実施する。 ・事務手続きが課題であるため、入力内容確認等の支援を行う。</p>	<p>✂次年度に向けての考え方</p> <p><分析> ・事業内容を聞きに来るなど、興味を持つ人はいるが、人員の確保が困難であり、組織化することが難しい。</p> <p><次年度取組内容> ・要望があれば、興味を持った地域に出向き、簡易な説明会を実施するなど組織化に向けて調整していく。</p>

千葉市農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略3 農業・農村と森林の持つ多面的機能の活用による魅力と交流の創出

方向性(2) 豊かな農地・農村環境と森林環境の整備

施策③ー豊かな農地・農村環境の保全

- ・農地・農村の良好な景観や環境保全活動を行う組織を支援するとともに、新たな活動組織の掘り起こしに努める。
- ・農村の水環境保全と地域住民の潤いの場提供のため、市内の水環境施設（親水施設）の適切な維持管理を行う。
- ・市街地に近接して緑地や農地が多く存在し、自然豊かな農業景観が広がっており、こうした緑豊かな景観の保全・活用を図るため、「千葉市景観計画」への位置付けを検討する。

実施事業ー農村の水環境の保全

主担当課：農政課

<計画期間の事業内容>

地域住民の安らぎやふれあいの場として利用されている水環境施設（親水施設）の維持管理を行う。

令和3年度の実行内容

令和4年度の実行内容

	令和3年度の実行内容	令和4年度の実行内容
計 画	<p>✂取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✂</p> <p><取組内容> 杉山地区、大池地区における水環境施設の維持管理を実施する。</p> <p><目標> 施設を良好な状態に保つ。</p> <p><スケジュール> 令和3年4月～令和4年3月 年間管理業務</p>	<p>✂取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール✂</p> <p><取組内容> 杉山地区、大池地区における水環境施設の維持管理を実施する。</p> <p><目標> 施設を良好な状態に保つ。</p> <p><スケジュール> 令和4年4月～令和5年3月 年間管理業務</p>
	<p>✂目標設定の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間をとおり、施設を良好な状態に保つ。 	<p>✂目標設定の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間をとおり、施設を良好な状態に保つ。
実 績	<p>✂取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○杉山地区 園内清掃（毎月）、草刈 2回/年、除草 1回/年、池清掃 1回/年 ○大池地区 園内清掃（毎月）、草刈 2回/年、除草 1回/年 	<p>✂取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○杉山地区 園内清掃（毎月）、草刈 2回/年、除草 1回/年、池清掃 1回/年 ○大池地区 園内清掃（毎月）、草刈 2回/年、除草 1回/年
達 成 度	<p>✂目標達成度</p> <p>B 計画通り実施した</p>	<p>✂目標達成度</p> <p>B 計画通り実施した</p>
	<p>✂次年度に向けての考え方</p> <p><次年度取組内容> ・施設を良好な状態に保てるよう維持管理に努める。</p>	<p>✂次年度に向けての考え方</p> <p><次年度取組内容> ・施設を良好な状態に保てるよう維持管理に努める。</p>

千葉市農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略3 農業・農村と森林の持つ多面的機能の活用による魅力と交流の創出

方向性(2) 豊かな農地・農村環境と森林環境の整備

施策④ー森林の適正管理・活用と木材利用の促進

- ・手入れがされず荒れた森林を健全な森林に育成・保全するため、整備に要する各種経費に対する支援を行う。また、台風などの自然災害に対応するため、新たに創設された森林環境譲与税を活用し、道路・送電線等への倒木被害防止や放置竹林の駆除など、森林の安全対策を推進する。
- ・森林の保全・整備を促進するため、森林ボランティアの活動を支援する。また、森林組合等の担い手に対する支援を行う。
- ・森林が持つ多様な機能や役割について市民の理解を深めるため、きのこの栽培体験や森林管理技術の講習等の森林体験教室を実施する。

実施事業ー森林ボランティアの推進

主担当課：農業経営支援課

<計画期間の事業内容>

森林整備の重要な担い手となっている森林ボランティアの活動について、森林管理のための技術研修や活動状況の情報発信等で支援する。

	令和3年度の実績	令和4年度の実績
計 画	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○森林ボランティア活動への理解や参加を呼び掛けるため、森林ボランティア技術研修会を開催する。 ○森林の保全・整備を行う森林ボランティアが行う育成研修や森林整備等普及啓発に対し支援する。 <目標数値> ・森林ボランティア技術研修会参加者 20人 <スケジュール> ・令和3年4月 森林ボランティア活動開始、支援開始 ・令和3年9月 森林ボランティア技術研修会 市政だより、ホームページで参加者募集 ・令和3年10月 森林ボランティア技術研修会開催	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○森林ボランティア活動への理解や参加を呼び掛けるため、森林ボランティア技術研修会を開催する。 ○森林の保全・整備を行う森林ボランティアが行う育成研修や森林整備等普及啓発に対し支援する。 <目標数値> ・森林ボランティア技術研修会参加者 20人 <スケジュール> ・令和4年4月 森林ボランティア活動開始、支援開始 ・令和4年9月 森林ボランティア技術研修会 市政だより、ホームページで参加者募集 ・令和4年10月 森林ボランティア技術研修会開催
	目標設定の考え方 ・森林ボランティア技術研修会募集人数 20人 ・森林ボランティア活動への理解や参加を呼び掛けることから、森林ボランティア技術研修会への参加者を目標とする。 ・令和元年度頃から若手の新人が森林ボランティア団体に入会するようになったため、新入会員が安全にチェーンソー操作などを行えるように、育成研修への参加を支援する。	目標設定の考え方 ・森林ボランティア技術研修会募集人数 20人 ・森林ボランティア活動への理解や参加を呼び掛けることから、森林ボランティア技術研修会への参加者を目標とする。 ・令和元年度頃から若手の新人が森林ボランティア団体に入会するようになったため、新入会員が安全にチェーンソー操作などを行えるように、育成研修への参加を支援する。
実 績	取組内容 ・森林ボランティア技術研修会を実施した。 ①参加者18人 ・育成研修受講費の支援を行った。 ①受講者12人	取組内容 ・森林ボランティア技術研修会を実施した。 ①参加者18人 ・育成研修受講費の支援を行った。 ①受講者11人
達 成 度	目標達成度 B 計画通り実施した	目標達成度 B 計画通り実施した
	次年度に向けての考え方 <次年度取組内容> 森林ボランティア活動への理解や参加を呼び掛けるとともに、森林ボランティア会員の林業機械等の研修参加を推進する。	次年度に向けての考え方 <次年度取組内容> 森林ボランティア活動への理解や参加を呼び掛けるとともに、森林ボランティア会員の林業機械等の研修参加を推進する。 また、森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業（国）を活用した、地域住民が行う森林の保全活動に対して支援する。

千葉市農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略3 農業・農村と森林の持つ多面的機能の活用による魅力と交流の創出

方向性(2) 豊かな農地・農村環境と森林環境の整備

施策④ー森林の適正管理・活用と木材利用の促進

・手入れがされず荒れた森林を健全な森林に育成・保全するため、整備に要する各種経費に対する支援を行う。また、台風などの自然災害に対応するため、新たに創設された森林環境譲与税を活用し、道路・送電線等への倒木被害防止や放置竹林の駆除など、森林の安全対策を推進する。

・森林の保全・整備を促進するため、森林ボランティアの活動を支援する。また、森林組合等の担い手に対する支援を行う。

・森林が持つ多様な機能や役割について市民の理解を深めるため、きのこの栽培体験や森林管理技術の講習等の森林体験教室を実施する。

実施事業ー森林整備の担い手の育成

主担当課：農業経営支援課

<計画期間の事業内容>

森林の保全・整備を促進するため、森林組合などの担い手に対する支援を継続して実施する。また、千葉県森林経営管理協議会に参加し、新たな担い手を確保する。

令和3年度の取組内容		令和4年度の取組内容	
計 画	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○森林整備の推進母体である千葉市森林組合に対し、活動経費の一部を助成する。 ○森林整備に関する情報収集を行うとともに、県及び他市町村との連携を強化するため、千葉県森林経営管理協議会に参加する。 <目標> ・千葉県森林経営管理協議会に主体的に参加し、得た情報をもとに施策に反映する。 <スケジュール> ○千葉県森林経営管理協議会 ・令和3年3月 設立総会 ・令和3年4月 事業開始 ・令和3年7月 個別打合せ（今後の取り組み等について） ・随時 情報共有、相談	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○森林整備の推進母体である千葉市森林組合に対し、活動経費の一部を助成する。 ○森林整備に関する情報収集を行うとともに、県及び他市町村との連携を強化するため、千葉県森林経営管理協議会に参加する。 <目標> ・千葉県森林経営管理協議会に主体的に参加し、得た情報をもとに施策に反映する。 <スケジュール> ○千葉県森林経営管理協議会 ・令和4年5月 総会出席 ・随時 情報共有、相談	
	目標設定の考え方 ・千葉県森林経営管理協議会の支援を受けることで、森林環境譲与税を活用した、市が新たに行う森林整備と関連施策を円滑に進めることを目指す。 ・個別打合せなどで協議会に主体的に参画し情報収集に努め、新たな担い手確保を目指す。	目標設定の考え方 ・千葉県森林経営管理協議会の助言を受けながら、森林環境譲与税を活用した、市が新たに行う森林整備と関連施策を円滑に進めることを目指す。	
	取組内容 ・個別相談会や研修会への参加を通して、森林経営管理に関する他市の取り組み事例や課題を情報収集し、本市における適切な森林管理や森林環境譲与税の活用について検討した。	取組内容 ・本市における適切な森林整備や森林環境譲与税の活用を検討するため、個別相談会や研修会に参加した。また、正確な森林情報の把握と整備が必要な森林の選定、今後の整備手法を検討するため、県の「スマート林業技術活用森林整備モデル事業」の活用を検討した。	
達 成 度	目標達成度 B 計画通り実施した	目標達成度 B 計画通り実施した	
	次年度に向けての考え方 ・千葉県森林経営管理協議会（個別打合せ）を通じて、情報収集やアドバイザーからの助言を受け、森林経営管理制度の活用を見据えた適切な森林管理方法、及び森林環境譲与税の活用を検討する。	次年度に向けての考え方 ・千葉県森林経営管理協議会（個別打合せ等）を通じて、県が主体となって実施する「スマート林業技術活用森林整備モデル事業」を活用して、近隣市と連携した森林整備について検討する。	

千葉市農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略3 農業・農村と森林の持つ多面的機能の活用による魅力と交流の創出

方向性(2) 豊かな農地・農村環境と森林環境の整備

施策④ー森林の適正管理・活用と木材利用の促進

- ・手入れがされず荒れた森林を健全な森林に育成・保全するため、整備に要する各種経費に対する支援を行う。また、台風などの自然災害に対応するため、新たに創設された森林環境譲与税を活用し、道路・送電線等への倒木被害防止や放置竹林の駆除など、森林の安全対策を推進する。
- ・森林の保全・整備を促進するため、森林ボランティアの活動を支援する。また、森林組合等の担い手に対する支援を行う。
- ・森林が持つ多様な機能や役割について市民の理解を深めるため、きのこの栽培体験や森林管理技術の講習等の森林体験教室を実施する。

実施事業一森林体験教室の実施

主担当課：農業経営支援課

<計画期間の事業内容>

森林の持つ機能や役割について市民の理解を深めるため、きのこの栽培体験や、森林管理技術の講習会、森の観察会などを開催する。

令和3年度の実績		令和4年度の実績	
計 画	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○自然とのふれあいを通じて、森林の役割や林業の必要性について市民の理解を深めるため、林業体験教室を開催する。 <目標数値> ・林業体験教室参加者 20人 <スケジュール> ・令和4年2月 市政だより、ホームページで参加者募集 ・令和4年3月 林業体験教室実施	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> ○自然とのふれあいを通じて、森林の役割や林業の必要性について市民の理解を深めるため、林業体験教室を開催する。 <目標数値> ・林業体験教室参加者 20人 <スケジュール> ・令和5年2月 市政だより、ホームページで参加者募集 ・令和5年3月 林業体験教室実施	
	目標設定の考え方 ・林業体験教室募集人数 20人 ・自然とのふれあいを通じて、森林の役割や林業の必要性について市民の理解を深めることから、教室への参加者を目標とする。	目標設定の考え方 ・林業体験教室募集人数 20人 ・自然とのふれあいを通じて、森林の役割や林業の必要性について市民の理解を深めることから、教室への参加者を目標とする。	
実 績	取組内容 林業体験教室を実施した。 ①参加者16人	取組内容 林業体験教室を実施した。 ①参加者16人 アンケート結果では、里山保全・森林整備について、「参加してみたい」「検討する」が13人であった。	
達 成 度	目標達成度 B 計画通り実施した	目標達成度 B 計画通り実施した	
	次年度に向けての考え方 ・森林の役割や林業の必要性を周知する。	次年度に向けての考え方 ・森林の役割や林業の必要性を周知する。	

千葉県農林業成長アクションプラン進行管理票

戦略3 農業・農村と森林の持つ多面的機能の活用による魅力と交流の創出

方向性(3) 環境との調和と安全・安心な農業の推進

施策①－食品表示の適性化による消費者の信頼確保

・食品表示法に係る巡回調査や講習会等を実施し、食品表示の適正化を推進することで、消費者の農畜産物への信頼を確保する。

実施事業－食品表示法に係る表示の適正化

主担当課：農政課

<計画期間の事業内容>

消費者の自主的かつ合理的な食品選択機会の確保を促すため、食品表示法に係る調査や講習会等を実施することで、表示の適正化を推進する。

令和3年度の実績		令和4年度の実績	
計 画	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> 国・県・庁内の関係機関と連携し、情報共有を行うとともに、事業者を対象とした巡回調査や講習会等を実施する <目標> 巡回調査80件 <スケジュール> 随時 巡回調査	取組の具体的な内容、目標数値、スケジュール <取組内容> 国・県・庁内の関係機関と連携し、情報共有を行うとともに、事業者を対象とした巡回調査や講習会等を実施する <目標> 巡回調査80件 <スケジュール> 随時 巡回調査	
	目標設定の考え方 巡回未実施施設及び前回実施から年数が経過した施設を中心に巡回を行うという観点から、巡回調査件数を設定した。	目標設定の考え方 巡回未実施施設及び前回実施から年数が経過した施設を中心に巡回を行うという観点から、巡回調査件数を設定した。	
実 績	取組内容 巡回調査 33件 新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、目標とした巡回調査件数を実施することができなかった。	取組内容 巡回調査 66件 国内での家きんにおける高病原性鳥インフルエンザの発生多発に伴い、その対応に時間を要したことから、目標とした巡回調査件数を達成することができなかった。	
達 成 度	目標達成度 C 計画通り実施されなかった	目標達成度 C 計画通り実施されなかった	
	次年度に向けての考え方 新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、巡回調査を実施し、食品表示の適正化を図る。	次年度に向けての考え方 食品表示法に係る表示の適正化について、農政部で所管していた品質事項は医療衛生部へ移管されることとなった。従来から医療衛生部で所管している衛生・保健事項と併せて、効率的な巡回調査や講習会等を実施し、食品表示の適正化を図る。	